

平成23年6月17日

知るぽると

www.shiruporuto.jp

金融広報中央委員会
(事務局 日本銀行情報サービス局内)

「子どものくらしとお金に関する調査」(第2回)

平成22年度調査

○ この調査は、知るぽると 金融広報中央委員会(事務局:日本銀行情報サービス局内)が、学校における金融教育の支援活動の参考とするため、子どものお金にまつわる日常生活(おこづかい、お年玉、インターネット利用など)、お金に関する意識・行動、金融経済に関する基本的な知識などを、無記名のアンケート方式により調査したものです。

全国(全都道府県)の376校の小学校・中学校・高等学校のご協力を得て、68,773名の児童・生徒に参加いただきました。

調査結果の概略

1. おこづかい、お年玉、お金の使い方や管理(金銭管理関連)

- ・ おこづかいは、小学生の約8割、中学生・高校生の9割弱がもらっている。小学校低学年(1-2年)・中学年(3-4年)の「もらっている」割合は、前回調査(平成17年度)に比べて増加。お年玉は、ほとんどの子どもがもらっており、1万円から5万円が多い。
- ・ おこづかいの使い方はさまざま。小学校中学年・高学年(5-6年)では「まんが」「本や雑誌」の順位が高くなり、中学生・高校生では「友達との外食・軽食代」「休日に遊びに行く交通費」の順位が高くなる。
- ・ お年玉は、「貯蓄する」が最も多い。貯蓄以外では、中学生・高校生では「おこづかいで不足する部分にあてる」「特別なものを購入する」が多い。
- ・ 「おこづかいが足りなくなること」が「ある」のは、5割弱から7割強。
- ・ 自分の貯蓄が「ある」のは、4割強から5割強。
- ・ 「おこづかい帳」をつけていない子どもは、7割強から9割弱に上る。

2. 携帯電話、インターネット、電子マネー、消費者トラブルの経験(消費者教育関連)

- ・ パソコン、携帯電話等を通じて、インターネットを「利用している」のは、小学校中学年で6割弱、高学年で7割強、中学生で8割強、高校生で9割弱。前回調査(17年度)に比べ、利用目的(用途)・利用率ともに大幅に拡大している。
- ・ 利用しているもののうち、「電話」「音楽のダウンロード」「ネットショッピング」は、「有料」での利用が多い。「ツイッター」「オークション」「懸賞応募」は、有料か無料か「わからない」との回答が多い。
- ・ 中学生・高校生のうち、3割前後(関東では6割前後)は「電子マネー」を利用し、6割弱は「ポイント」を利用している。また、3割弱から5割弱は「迷惑メール」を受信しているなど、消費者トラブルの経験もみられる。

3. 家の人との会話、家事・手伝い、アルバイト（キャリア教育関連）

- ・ 子どもたちは、家庭で「家の中の仕事のこと」「自分がつきたい仕事」「将来の夢」などを話題にしている。家事・手伝いも、食事、入浴、掃除（自分が利用する場所）、洗濯、就寝などに関連して、広い範囲で行っている。
- ・ 「家の中の仕事のこと」や「自分がつきたい仕事」についての会話が多くの子どもは、家事・手伝いをしている割合が高い。アルバイトに関心を持つ中学生・高校生は多い。

4. お金に関する意識、金融経済に関する知識、知識と行動等（金融と経済のしくみなど）

- ・ お金に関する意識をみると、「お金をたくさん貯めたい」（7割強から9割強）、「お金よりも大事なものがある」（6割強から9割弱）と思う割合が高い。
- ・ 小学生では「利子」（正答率：3割弱から4割弱）、中学生・高校生では「単利」（4割前後）、「複利」（3割前後）、「インフレ」「デフレ」（3割強から5割弱）、「クレジットカード」（2割弱から4割強）の理解が低い。高校生の用語知識では、「複利」「ペイオフ」「リスクとリターン」「多重債務」の「内容がほぼわかる」割合が低い（1割から3割弱）。
- ・ 金融経済の知識の高い子どもは、お金に関する行動に計画性などがうかがわれる。また、家の人との会話が多く、とくに「社会のこと」についてよく話をする割合が高い。

当委員会の活動への示唆

1. **【生活設計・家計管理】** 子どもたちは、小学校低学年より、いろいろな形でお金を扱っている。子どもたちの将来のために、お金の計画的な管理や使い方について、早い段階から考えさせ、教えていくことが望まれる。
2. **【消費者教育】** 子どもたちにとってインターネットがより身近になり、消費者トラブルを経験する子どももいる。トラブルに巻き込まれないよう、消費者教育を早めに行っていく必要がある。
3. **【キャリア教育】** 子どもたちは働くことを意識し、アルバイトへの関心も高い。家庭内での会話や学校における教育が、子どもたちが働くことの意義を考え、幅広い職業観を形成することに結びつくことが望まれる。
4. **【金融と経済のしくみなど】** 子どもたちは全体としてみると金融経済の基礎的な知識に関する理解は十分ではない。社会に出るまでに、必要な知識を段階的に身につけさせていく必要がある。

「知るぽると 金融広報中央委員会」について

知るぽると 金融広報中央委員会（事務局 日本銀行情報サービス局内）は、健全で合理的な家計運営のために、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、中立・公正な立場からの正確でわかりやすい「金融経済情報の提供」と、一人ひとりが賢い消費者として自立するための「金融経済学習の支援」を積極的に展開しています。

— 目 次 —

【調査要綱】	1
【調査結果の概要】	
I おこづかい、お年玉、お金の使い方や管理	
1. おこづかい	3
2. お年玉	6
3. お金の使い方や管理	8
II 携帯電話、インターネット、電子マネー、消費者トラブルの経験	
1. 持ち物	12
2. 携帯電話	13
3. インターネット	14
4. 電子マネーほか.....	18
5. 消費者トラブルの経験	18
III 家の人との会話、家事・手伝い、アルバイト	
1. 家の人との会話	19
2. 家事・手伝い	21
3. アルバイト	23
IV お金についての意識、金融経済の知識、知識と行動等	
1. お金についての意識	24
2. 金融経済の知識	27
3. 知識と行動等	30
【調査結果（単純集計データ）】	
・ 小学校 低学年	32
・ 〃 中学年	38
・ 〃 高学年	46
・ 中学生	54
・ 高校生	68
・ 学校の属性	84

【調査要綱】

1. 調査の目的

この調査は、学校での金融教育の支援活動の参考とするため、子どものお金にまつわる日常生活（おこづかい、お年玉、インターネット利用など）、お金に関する意識・行動、金融経済に関する基本的な知識などについて、調査したものです。

平成17年度に第1回の調査を実施しました。その後の子どもを取り巻く金融環境等の変化などを踏まえ、今回、5年振りに第2回目となる調査を実施しました。

2. 調査の内容

主な調査項目は次のとおりです。なお、本調査の具体的な設問内容については、【調査結果（単純集計データ）】に掲載している調査票を参照ください。

(1) おこづかい、お年玉

有無、金額、もらう相手、おこづかいの使いみち、足りなくなったときの対処方法等

(2) アルバイト・貯蓄等

アルバイトの経験・考え方、貯蓄の有無、図書カード・電子マネーなどの利用等

(3) 持ち物・携帯電話・インターネットの利用

専用の持ち物、携帯電話の利用金額・用途、インターネットの利用等

(4) 家の人との会話、家事・手伝い

会話の内容・頻度、家庭での家事・手伝い等

(5) お金についての意識、金融経済の知識

お金についての意識や行動、お金や金融経済についての考え方、金融経済の知識等

3. 調査対象校の抽出方法

調査対象校は、国内の小学校・中学校・高等学校とし、以下の方法により募集し、調査への協力を得ました。

(1) 公募による募集（教育関係者向けセミナー等の席上で協力先募集案内を配付したほか、ホームページにて募集）

(2) 無作為抽出法により抽出した先に協力を依頼

(3) 都道府県金融広報委員会を通じた金融・金銭教育研究校への依頼

(4) その他個別校への依頼（教育関係者向けセミナー等に参加した学校など）

4. 調査の方法

(1) 調査対象校へ調査票を郵送し、学校において児童・生徒が自ら記入し回答（学校を通した自記式調査）。回答は無記名。

(2) 調査対象校のうちの無作為抽出先の応募受付、調査対象校への調査票の送付・回収、結果の集計は、トランス・コスモス(株)に委託しました。

5. 調査の時期

平成 22 年 12 月～平成 23 年 3 月

6. サンプル数

本調査への協力校は 376 校、サンプル数合計は 68,773（詳細は下表参照）。

地域	小学校					中学校		高等学校	
	学校数	児童数				学校数	生徒数	学校数	生徒数
			低学年	中学年	高学年				
全国	123	20,331	5,810	6,427	8,094	128	20,139	125	28,303
北海道	8	1,193	326	404	463	11	1,785	5	569
東北	14	1,478	311	296	871	13	1,524	16	3,776
関東	24	4,779	1,229	1,697	1,853	27	4,117	30	7,530
北陸	11	2,915	866	789	1,260	9	970	9	2,268
中部	12	847	217	248	382	14	2,179	14	2,434
近畿	14	2,811	874	861	1,076	20	5,804	15	3,273
中国	9	1,228	330	457	441	7	404	6	1,573
四国	12	2,300	776	797	727	13	1,710	6	1,576
九州	19	2,780	881	878	1,021	14	1,646	24	5,304

* 地域は、以下のように分類。

北海道 …… 北海道
東北 …… 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東 …… 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北陸 …… 新潟県、富山県、石川県、福井県
中部 …… 山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿 …… 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国 …… 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国 …… 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州 …… 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

** 小学校は、すべての学校が低学年・中学年・高学年で調査を実施しているわけではありません。

本調査についての照会先

金融広報中央委員会（事務局 日本銀行情報サービス局内）

電話 03 (3277) 2168（直通）

なお、調査結果については、金融広報中央委員会のインターネット・ホームページ（アドレス：<http://www.shiruporuto.jp/>）でも閲覧・ダウンロードすることができます。

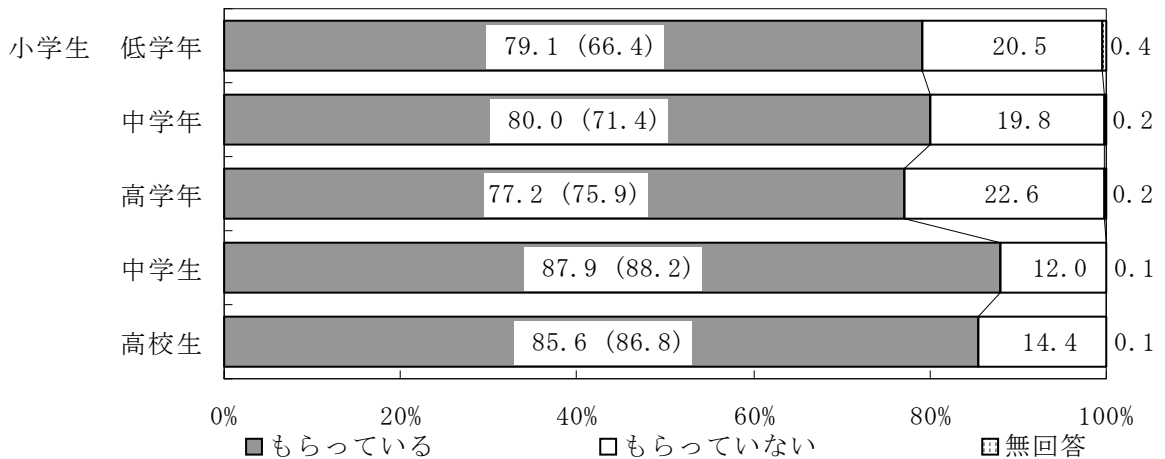
I おこづかい、お年玉、お金の使い方や管理

1. おこづかい

(1) おこづかいの有無、もらう相手

- ・おこづかいは、小学生の約8割、中学生・高校生の9割弱が「もらっている」と回答。前回調査に比べ、小学校低学年（1-2年）・中学年（3-4年）で「もらっている」割合が増加した【図表1】。
- ・おこづかいをもらっている相手は、「親」の割合がもっとも高いが、小学校低学年・中学年では、「祖父母」からもらう割合が4割強となっている【図表2】【図表3】。

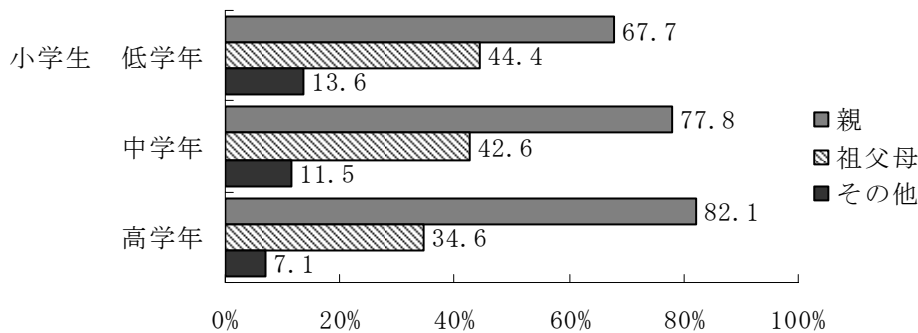
【図表1】 おこづかいの有無



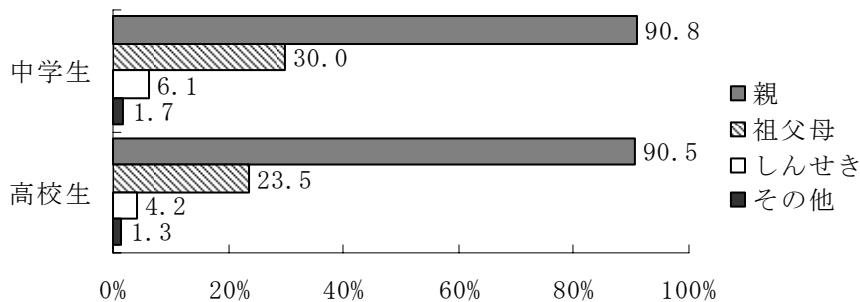
(注1) 中学生と高校生の「もらっている」は、「もらっている（定期的）」と「もらっている（必要の都度）」の合計。

(注2) () 内は、前回調査（平成17年度）の結果。

【図表2】 もらっている相手（複数回答）＜小学生＞



【図表3】 もらっている相手（複数回答）＜中学生・高校生＞

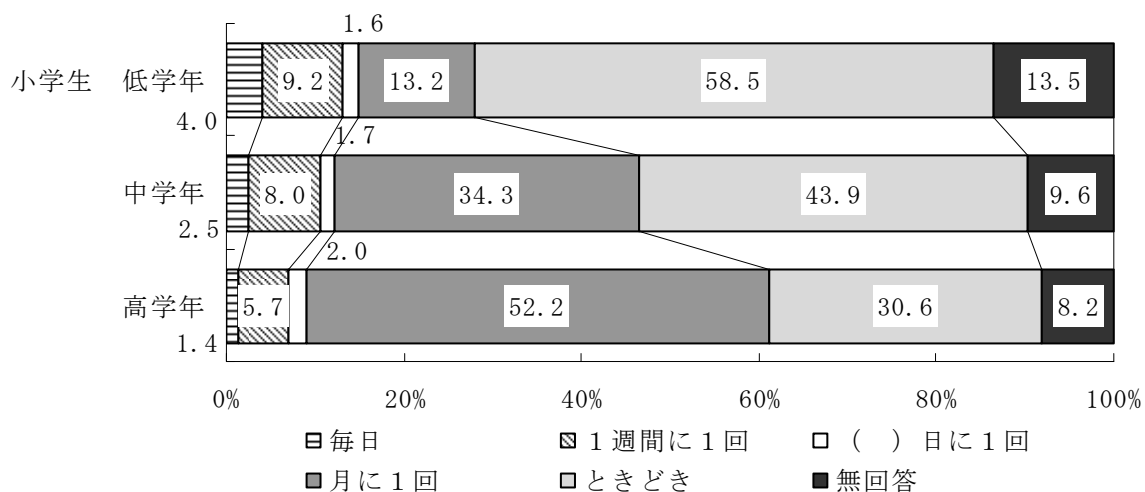


(2) おこづかいのもらい方、金額

- ・小学生のおこづかいのもらい方をみると、低学年では、「ときどき」もらっているとの回答が6割弱で最も多い【図表4】。
- ・中学年では、「ときどき」が4割強、「月に1回」が3割強となっている。
- ・高学年では、「月に1回」が5割強で最も多く、「ときどき」が約3割となっている。

【図表4】小学生のおこづかいのもらい方

<小学生>



- ・「ときどき」もらう場合で、最も多い回答（最頻値）は、低学年と中学年は100円、高学年は1,000円となっている【図表5】。

【図表5】小学生のおこづかい額

		最頻値	最も多い金額帯	次に多い金額帯	平均値	中央値
月に1回	低学年	500円	500-700円未満 (21.7%)	100-200円未満 (17.8%)	949円	400円
	中学年	500円	500-700円未満 (27.3%)	1,000-1,500円未満 (19.7%)	896円	500円
	高学年	500円	500-700円未満 (37.6%)	1,000-1,500円未満 (29.9%)	1,087円	1,000円
ときどき	低学年	100円	100-200円未満 (32.6%)	100円未満 (21.5%)	689円	100円
	中学年	100円	100-200円未満 (24.6%)	500-700円未満 (16.4%)	847円	300円
	高学年	1,000円	1,000-1,500円未満 (23.7%)	500-700円未満 (22.7%)	1,174円	500円

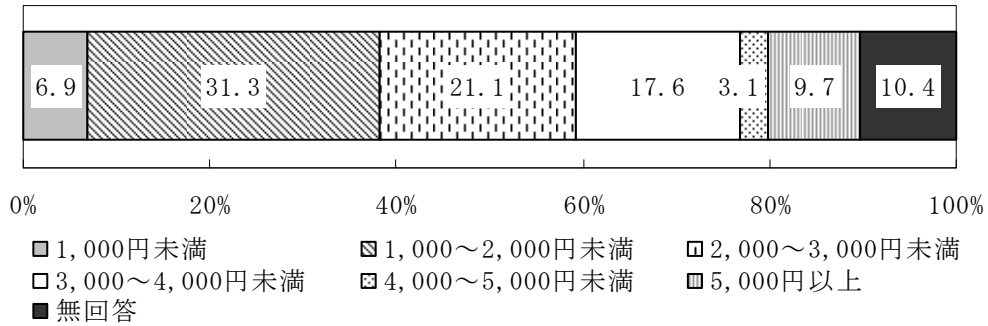
(注1) 最頻値は、最も多く回答された値。中央値は、回答金額を上位から下位に並べた場合に中位（真ん中）に位置する値。

(注2) < >内は、当該金額帯の回答者の全体に占める割合。

- ・中学生の1か月のおこづかい額は、最頻値は1,000円、平均値は2,502円【図表6】。
- ・高校生の1か月のおこづかい額は、最頻値は5,000円、平均値は5,305円。

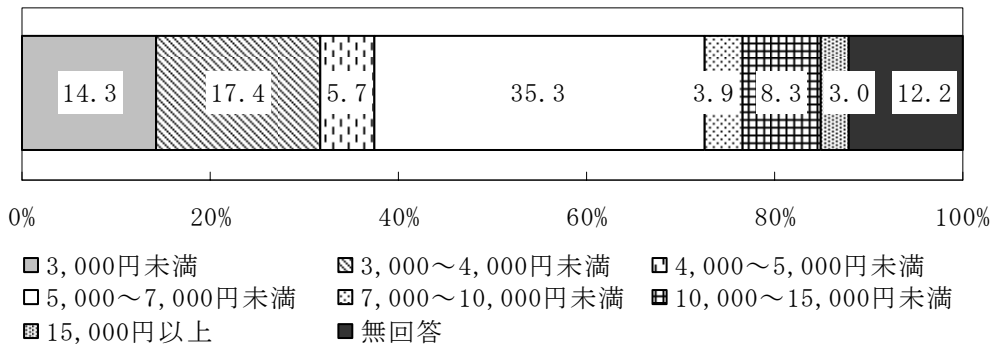
【図表6】中学生、高校生の1か月のおこづかい額

<中学生>



最頻値	平均値	中央値
1,000円	2,502円	2,000円

<高校生>

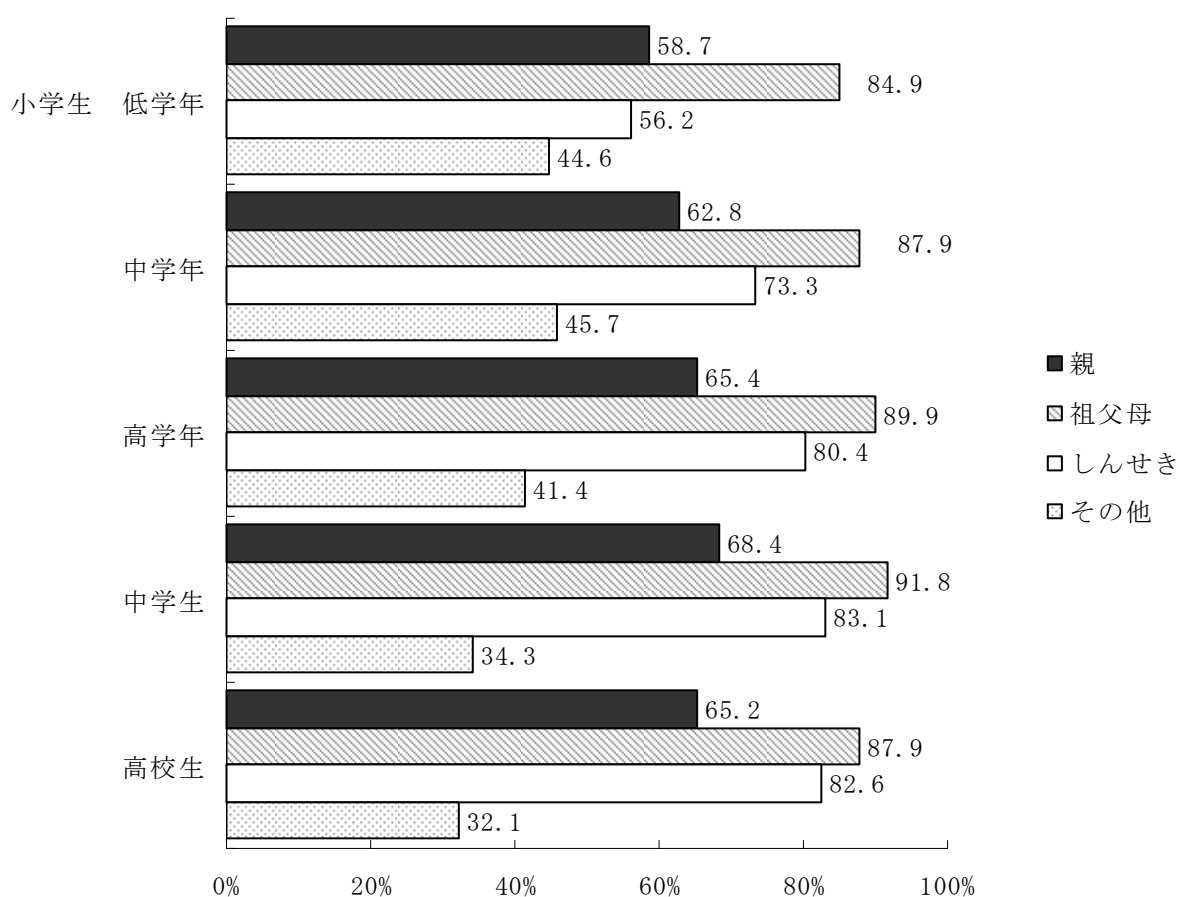


最頻値	平均値	中央値
5,000円	5,305円	5,000円

2. お年玉

- ・お年玉は、小学生・中学生・高校生のほとんどが「もらった」と回答。
- ・お年玉をもらった相手は、「祖父母」が最も多く、次いで、「しんせき」、「親」となっている【図表7】。
- ・お年玉の額をみると、小学生では、低学年は「10,000円くらい」が最も多く、2割強となっている。中学年は「10,000～19,999円」が最も多く、3割弱となっている。高学年は「20,000～29,999円」が最も多く、3割弱となっている。なお、これらの額を上回る額をもらっているとの回答も多い【図表8】。
- ・中学生・高校生では、「10,000～50,000円未満」が最も多く、約5割となっている。

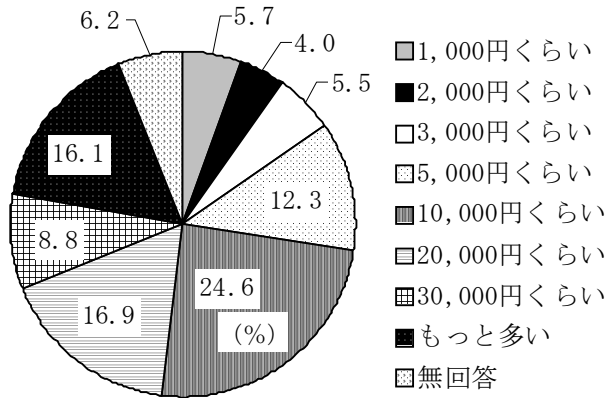
【図表7】 お年玉をもらった相手（複数回答）



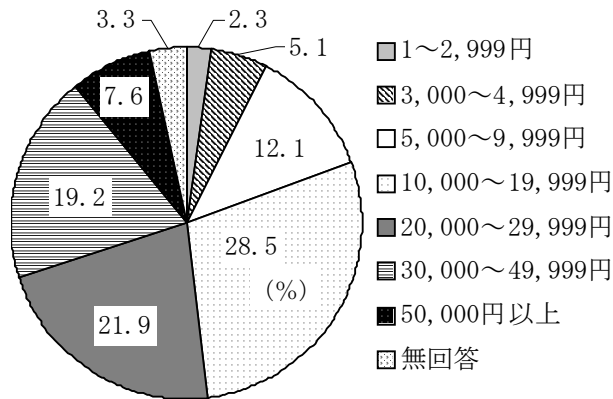
- (注1) 小学生では、「くれた人」についての回答を集計。「しんせき」は「おじさん、おばさん、いとこ」。
- (注2) 中学生・高校生については、「もらった人」別の金額欄に記入があった場合、「もらった相手」として集計。

【図表8】お年玉の額

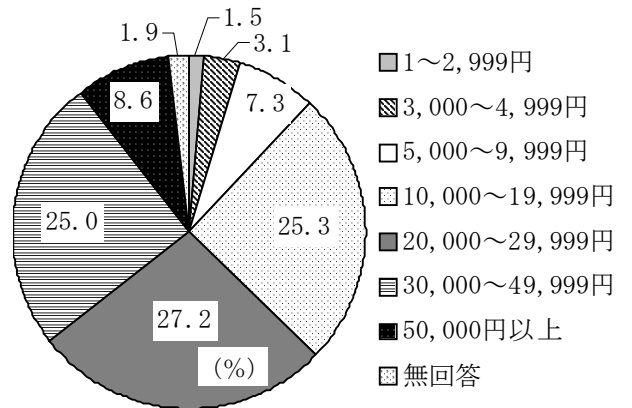
<小学生 低学年>



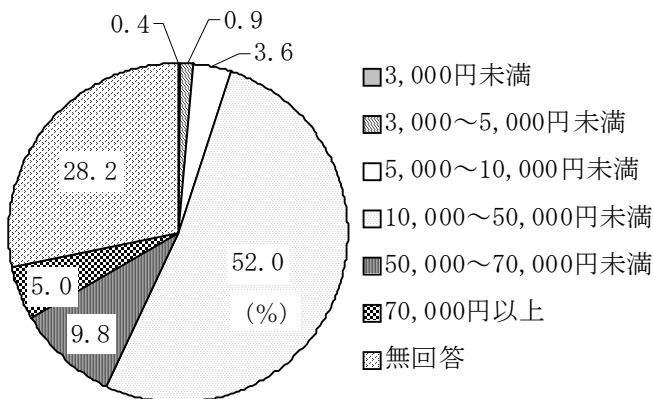
<小学生 中学年>



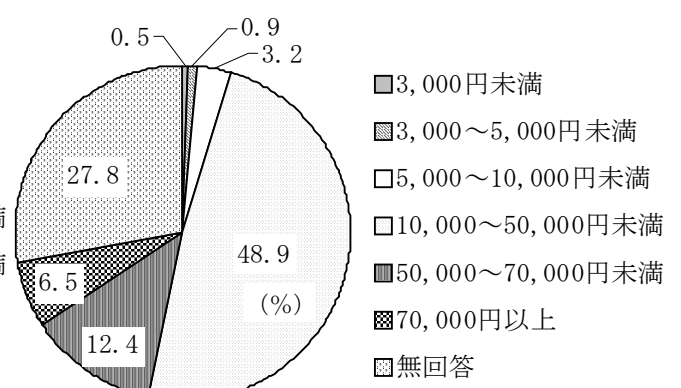
<小学生 高学年>



<中学生>



<高校生>



3. お金の使い方や管理

(1) おこづかいの使い方（学年別）

- ・おこづかいの使い方をみると、小学生低学年では「おかしやジュース」、「おもちゃなど」、「ゲームをする」が上位にある【図表9】。
- ・小学校中学年では「まんが」、小学校高学年では「本やざっし」の順位が上がっている。
- ・中学生では「友達との外食・軽食代」、高校生では「休日に遊びに行く交通費」の順位が上がっている。

【図表9】 おこづかいの使い方（複数回答）：ランキング

順位	小学生		
	低学年（8項目中）	中学年（14項目中）	高学年（16項目中）
1位	おかしやジュース〈33〉	ゲームソフトやおもちゃ類〈43〉	ゲームソフトやおもちゃ類〈49〉
2位	おもちゃなど〈32〉	おかしやジュース〈42〉	おかしやジュース〈48〉
3位	ゲームをする〈32〉	まんが〈33〉	まんが〈48〉
4位	ノートやえんぴつなど〈27〉	ノートやえんぴつなど〈32〉	本やざっし〈39〉
5位	いえのひとへのプレゼント〈22〉	ゲームをする〈31〉	ゲームをする〈37〉
6位	本やざっし〈17〉	家の人へのプレゼント〈31〉	友達へのプレゼント〈35〉
7位	まんが〈15〉	友だちへのプレゼント〈23〉	家の人へのプレゼント〈34〉
8位	ともだちへのプレゼント〈13〉	本やざっし〈21〉	ノートやえん筆など〈32〉
9位	—	休みの日にあそびに行く交通ひ〈6〉	友達との食事・おやつ代〈28〉
10位	—	DVD・ビデオやCDのレンタル〈6〉	CD・MD〈15〉

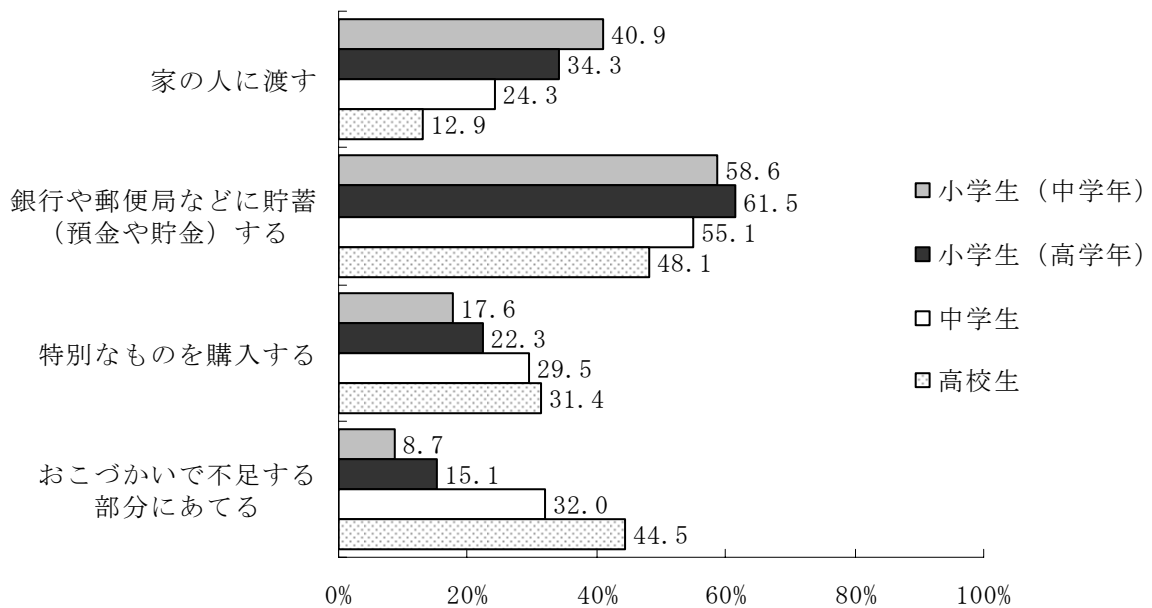
順位	中学生（27項目中）	高校生（27項目中）
	1位	おやつなどの飲食物〈79〉
2位	友達との外食・軽食代〈75〉	友達との外食・軽食代〈87〉
3位	友達へのプレゼント〈69〉	休日に遊びに行く交通費〈76〉
4位	文房具〈69〉	小説や雑誌〈74〉
5位	小説や雑誌〈69〉	昼食〈73〉
6位	ゲーム代〈68〉	友達へのプレゼント〈72〉
7位	まんが〈68〉	文房具〈67〉
8位	家の人へのプレゼント〈65〉	映画やライブのチケット〈67〉
9位	休日に遊びに行く交通費〈62〉	まんが〈66〉
10位	ゲームソフトやおもちゃ類〈60〉	家の人へのプレゼント〈64〉

(注) < >内は、当該項目の回答者の全体に占める割合、%（小数点以下四捨五入）。

(2) お年玉の取扱い

- ・もらったお年玉の取扱いをみると、「銀行や郵便局などに貯蓄（預金や貯金）する」との回答が最も多い【図表 10】。
- ・貯蓄以外では、中学生・高校生では、「おこづかいで不足する部分にあてる」、「特別なものを購入する」が多い。

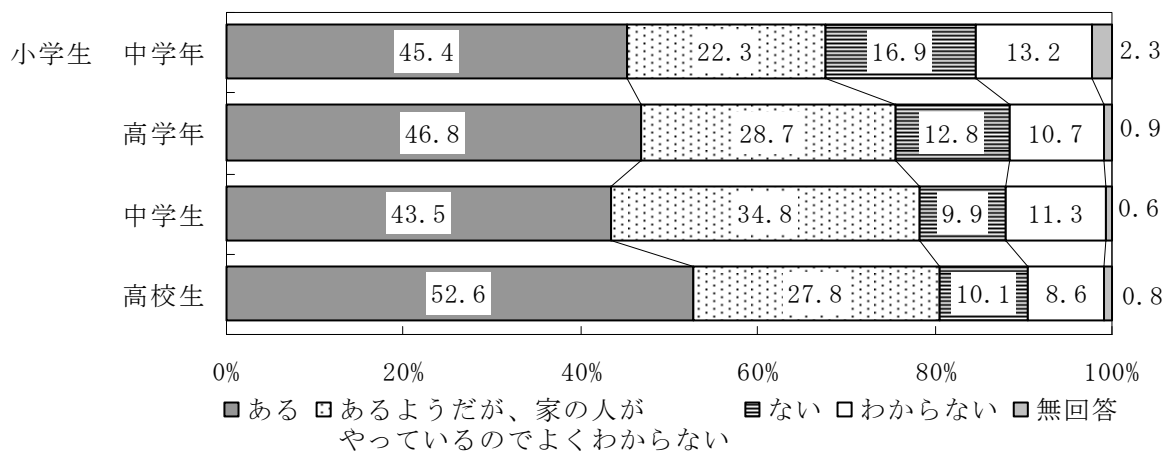
【図表 10】 お年玉の取扱い（複数回答）



(3) 自分の貯蓄の有無

- ・自分の貯蓄をみると、「ある」との回答が4割強から5割強となっている【図表 11】。
- ・「あるようだが、家の人やっているのによくわからない」との回答は、中学生で3割強、高校生で3割弱となっている。

【図表 11】 自分の貯蓄の有無

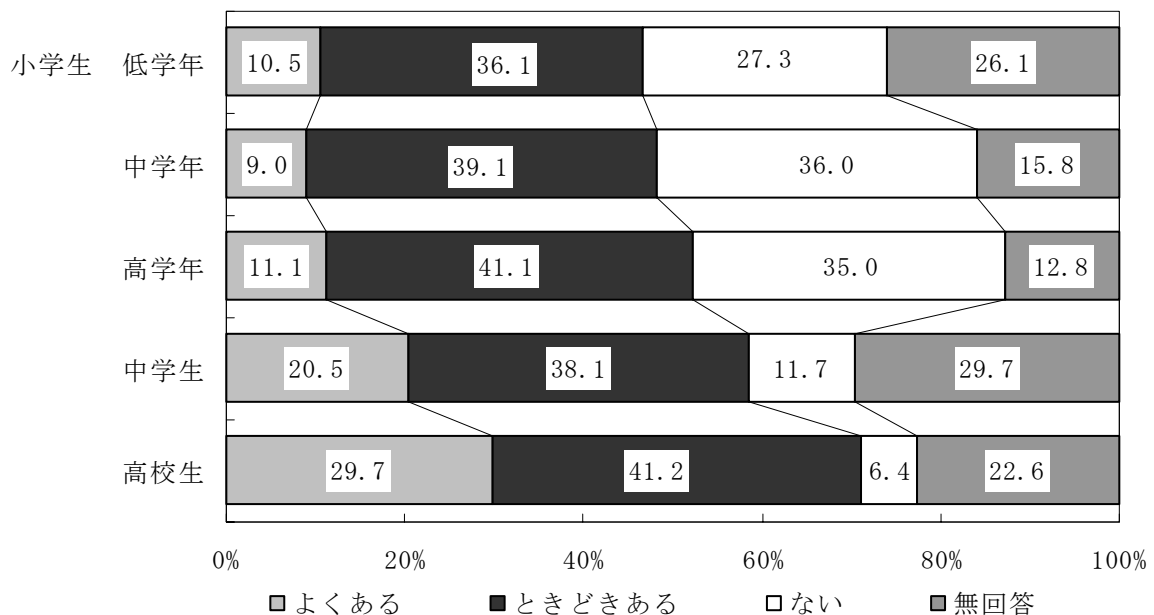


(注) 「銀行や郵便局などに、自分の貯蓄（預金や貯金）がありますか」に対する回答。

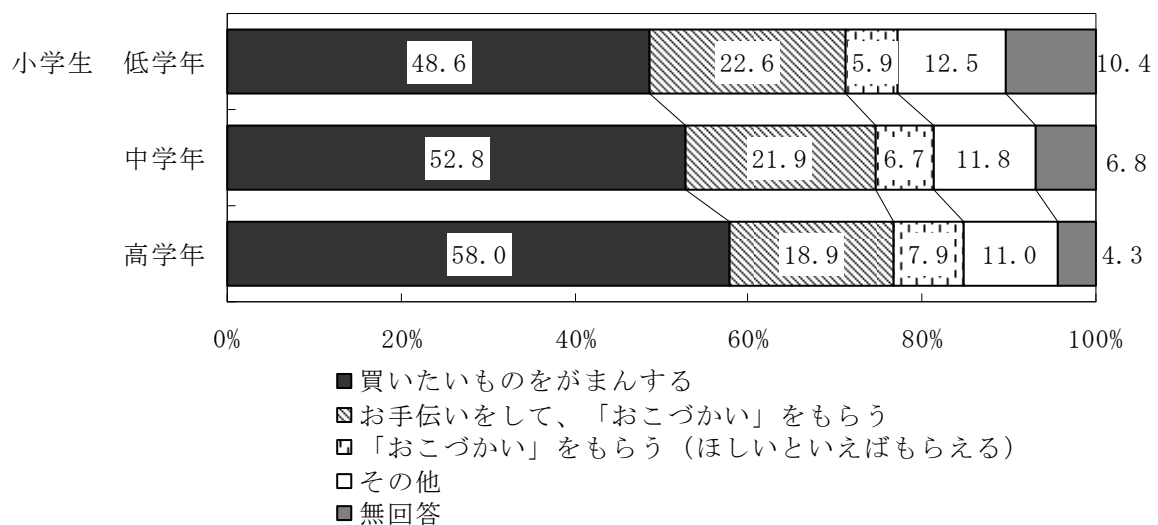
(4) おこづかいが不足した経験、不足したときの対応

- ・おこづかいが不足した経験をみると、「ある」（「よくある」と「ときどきある」の合計）は、小学校低学年・中学年で5割弱、小学校高学年で5割強、中学生で6割弱、高校生で7割強となっている【図表12】。
- ・おこづかいが不足したときの対応をみると、小学生では、「買いたいものをがまんする」が最も多く、5割弱から6割弱となっている【図表13】。
- ・おこづかいが不足したときの対応を中学生・高校生についてみると、「買いたいものをあきらめる」は中学生で4割強、高校生で4割弱。「貯めておいた預金や貯金をおろして買う」は中学生で2割弱、高校生で2割強。「次の『おこづかい』を前借りする」は中学生で1割強、高校生で2割弱となっている【図表14】。

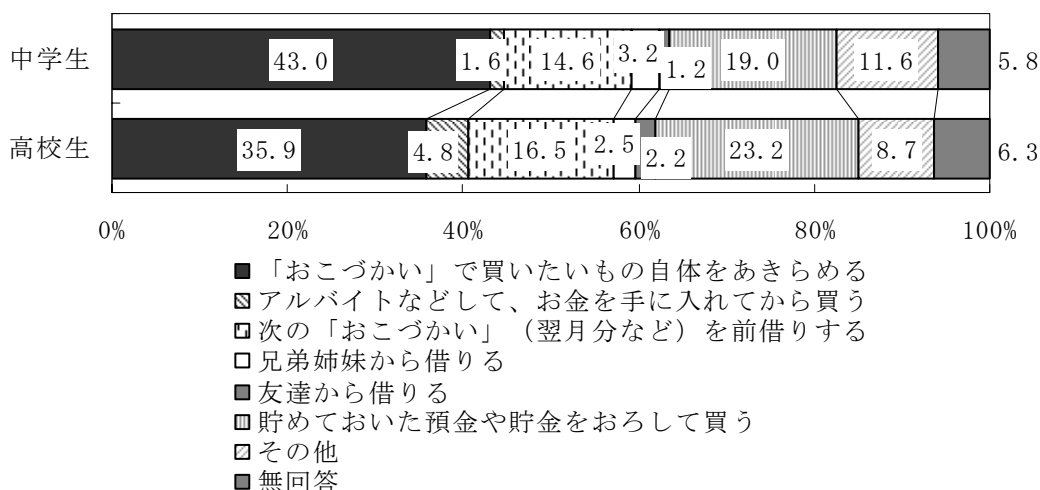
【図表12】 おこづかいが不足した経験



【図表13】 おこづかいが不足したときの対応（小学生）



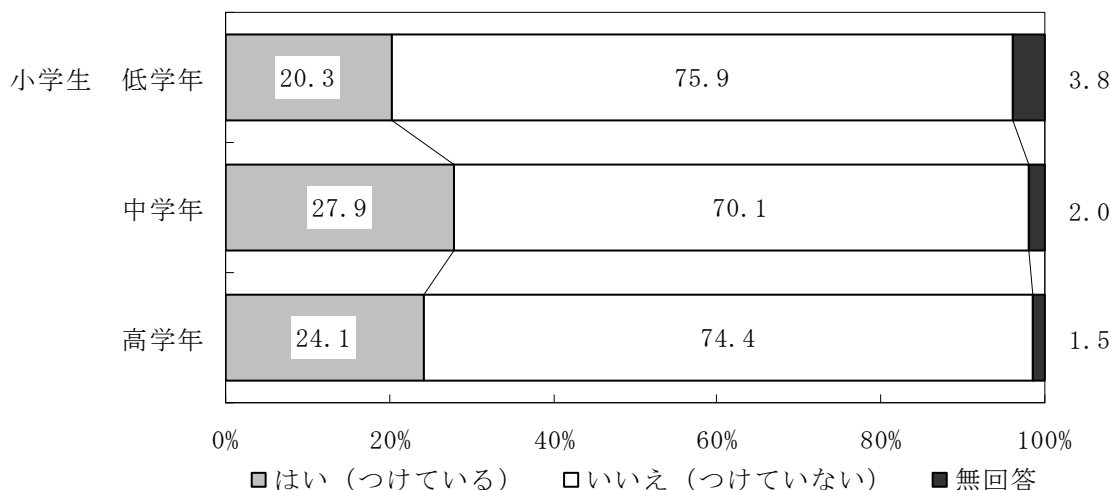
【図表 14】 おこづかいが不足したときの対応（中学生・高校生）



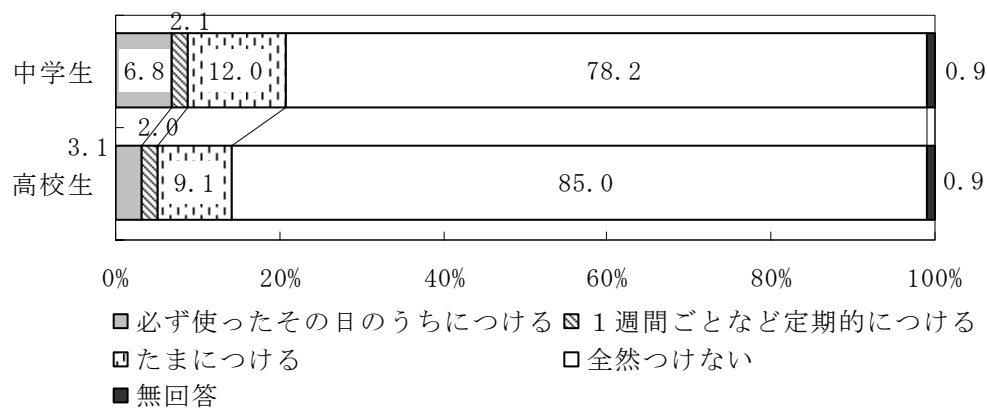
(5) 「おこづかい帳」

・「おこづかい帳」をつけているのは、小学生で2割強から3割弱、中学生で2割強、高校生で1割強となっている【図表 15】【図表 16】。

【図表 15】 「おこづかい帳」をつけているか（小学生）



【図表 16】 「おこづかい帳」をつけているか（中学生・高校生）



Ⅱ 携帯電話、インターネット、電子マネー、消費者トラブルの経験

1. 持ち物

- ・自分専用の持ち物についてみると、携帯電話を持っているとの回答は、小学校中学年・高学年は2割強、中学生は6割弱、高校生は10割弱となっている【図表17】。
- ・パソコンを持っているとの回答は、小学校中学年は1割弱、小学校高学年と中学生は1割強、高校生は2割強となっている。
- ・ゲーム機を持っているとの回答は、小学生と中学生は8割強から9割弱、高校生は7割弱となっている。
- ・前回調査と比較すると、テレビを持っているとの回答は減少し、ゲーム機、携帯電話を持っているとの回答は増加した。
- ・なお、男女別にみると、男子はテレビ、パソコン、ゲーム機を持っているとの回答が多く、女子は携帯電話を持っているとの回答が多い。

【図表17】 自分専用の持ち物（複数回答）

(%)

		テレビ	携帯電話	パソコン	ポータブルオーディオ機器	ゲーム機
小学生	中学年 全体	9.4 (14.3)	20.8 (12.1)	8.2 (10.9)	23.2	81.1 (62.4)
	男子	11.4 (17.0)	18.3 (11.1)	8.8 (11.2)	16.6	85.9 (75.7)
	女子	7.1 (11.4)	23.2 (13.1)	7.6 (10.5)	30.4	75.9 (48.4)
	高学年 全体	12.8 (21.2)	23.7 (13.5)	10.5 (11.6)	46.1	87.8 (66.4)
	男子	14.9 (25.6)	19.3 (10.3)	11.0 (11.8)	34.8	92.3 (82.0)
	女子	10.8 (16.8)	28.3 (16.8)	9.8 (11.2)	57.8	83.4 (50.8)
中学生	全 体	19.0 (29.9)	57.5 (50.4)	14.9 (14.3)	45.1	81.1 (55.3)
	男子	23.6 (34.8)	49.7 (44.9)	16.2 (15.7)	44.7	88.8 (73.9)
	女子	14.2 (23.9)	65.4 (56.8)	13.6 (12.5)	45.6	73.3 (32.9)
高校生	全 体	30.8 (43.1)	96.5 (94.6)	22.1 (18.6)	53.4	66.1 (45.3)
	男子	39.2 (53.9)	95.4 (92.7)	26.6 (22.2)	59.5	84.6 (72.6)
	女子	24.1 (34.8)	97.4 (96.6)	18.5 (15.8)	48.7	51.7 (24.2)

(注1) () 内は、前回調査（平成17年度）の結果。

(注2) 「ポータブル・オーディオ機器」は、小学生では「音楽をきく機械（持ち運びできるもの）」。

(注3) 「ゲーム機」は、前回調査では「テレビゲーム機」。

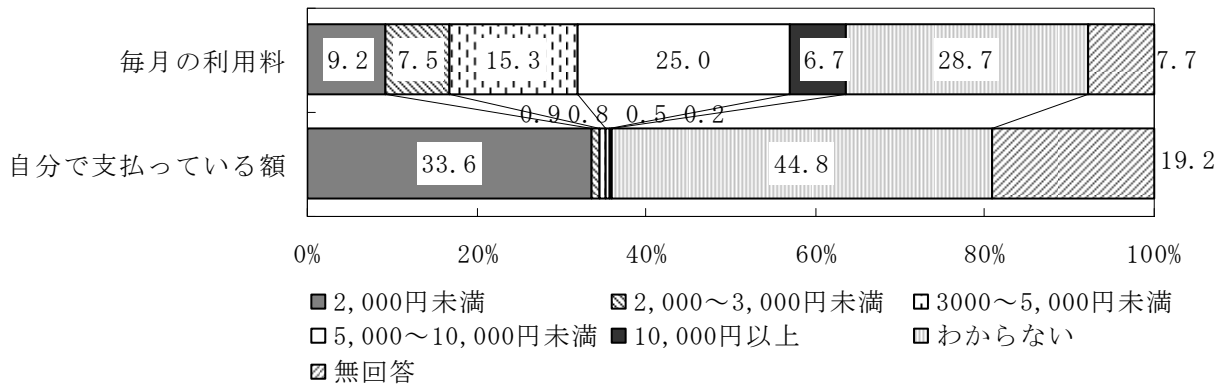
2. 携帯電話

(1) 携帯電話の利用料、支払額

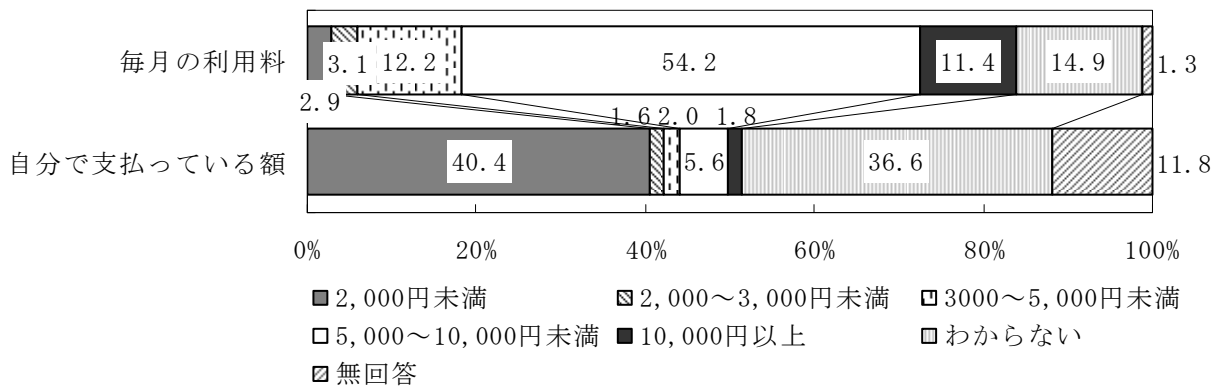
- ・携帯電話の毎月の利用料は、「5,000～10,000円未満」との回答が最も多く、中学生の3割弱、高校生の5割強となっている。なお、「10,000円以上」は、中学生の1割弱、高校生の1割強となっている【図表18】。
- ・利用料のうち、自分で支払っている額は、中学生の3割強、高校生の約4割が「2,000円未満」と回答している。また、中学生の4割強、高校生の4割弱が「わからない」と回答している。

【図表18】携帯電話の利用料と自分で支払っている額

<中学生>



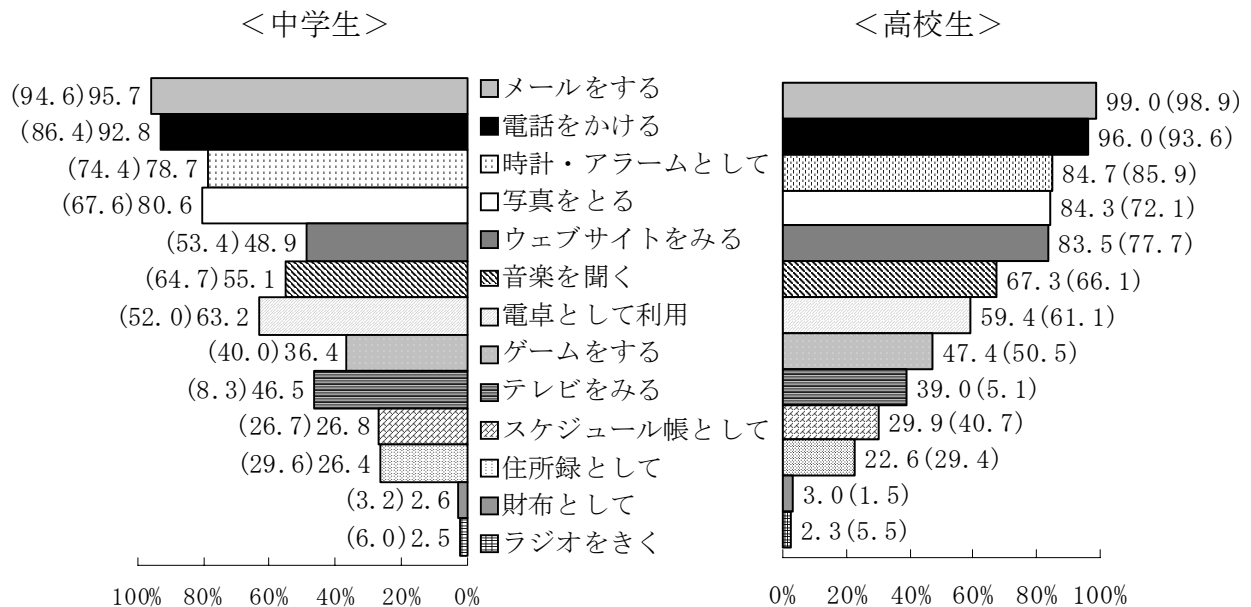
<高校生>



(2) 携帯電話の利用方法

- ・携帯電話の利用方法についてみると、「メールをする」、「電話をかける」との回答が9割以上となっている。「ウェブサイトを見る」との回答は、中学生の約5割、高校生の8割強となっている【図表19】。
- ・前回調査と比較すると、「写真をとる」、「テレビをみる」が大幅に増加している。

【図表19】携帯電話の利用方法（複数回答）



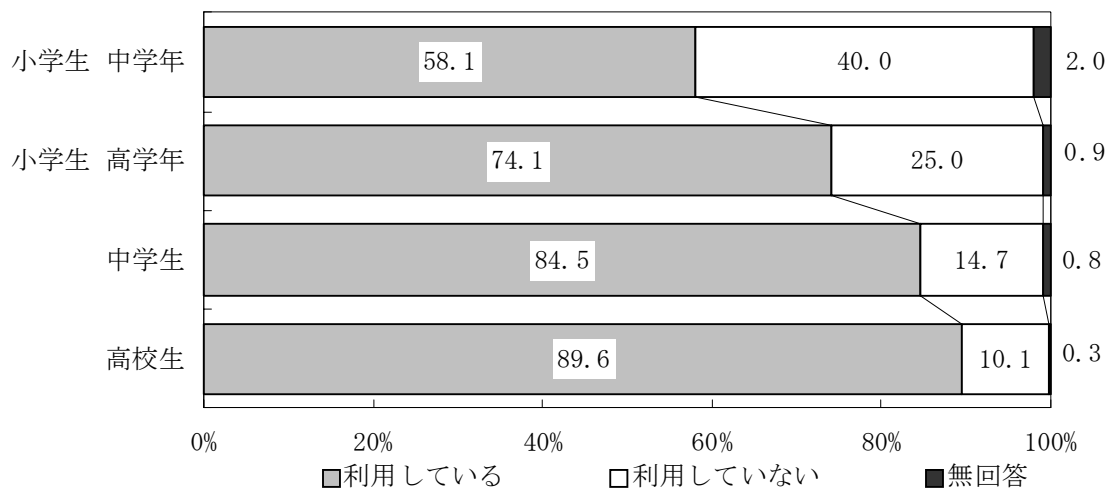
(注) () 内は、前回調査（平成17年度）の結果。

3. インターネット

(1) インターネットの利用状況

- ・インターネットの利用状況をみると、小学校中学年の6割弱、高学年の7割強、中学生の8割強、高校生の約9割が「利用している」と回答している【図表20】。

【図表20】インターネットの利用状況

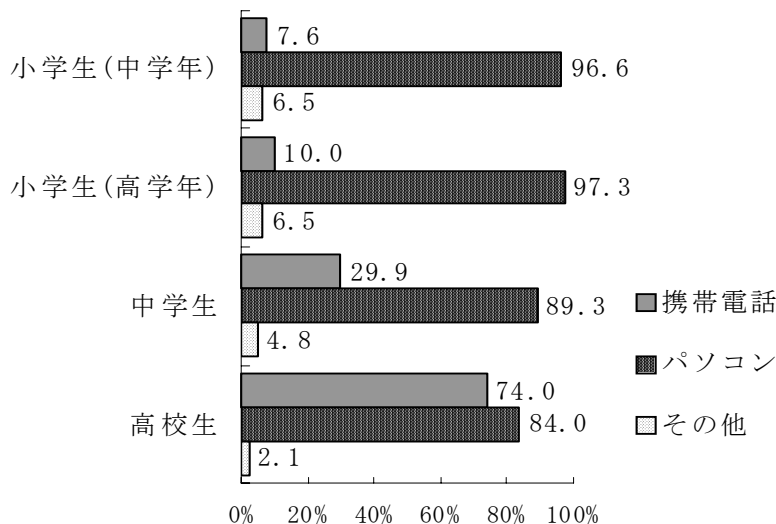


(2) インターネットの利用媒体、利用場所

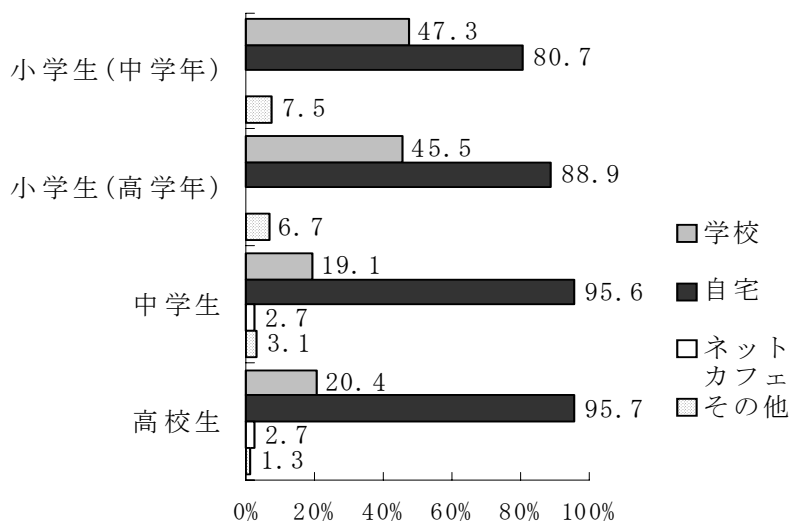
- ・インターネットを利用している場合の媒体をみると、小学校中学年・高学年では、ほぼ全員（約97%）が「パソコン」から利用していると回答。「携帯電話」から利用しているのは、小学校中学年で1割弱、小学校高学年で1割となっている。なお、小学校中学年・高学年では、「その他」からの利用が1割弱あり、自由記入欄をみると「その他」の大半はゲーム機となっている【図表 21】。
- ・中学生では、パソコンからの利用が約9割、携帯電話からの利用が約3割。高校生では、パソコンからの利用が8割強、携帯電話からの利用が7割強となっている。
- ・パソコンからインターネットを利用している場合のパソコンの利用場所（複数回答）をみると、「自宅」が8割から9割強と最も多く、「学校」は小学校中学年・高学年で5割弱、中学生・高校生で約2割となっている。

【図表 21】 インターネットの利用媒体、利用場所（ともに複数回答）

<利用媒体>



<パソコンの利用場所>

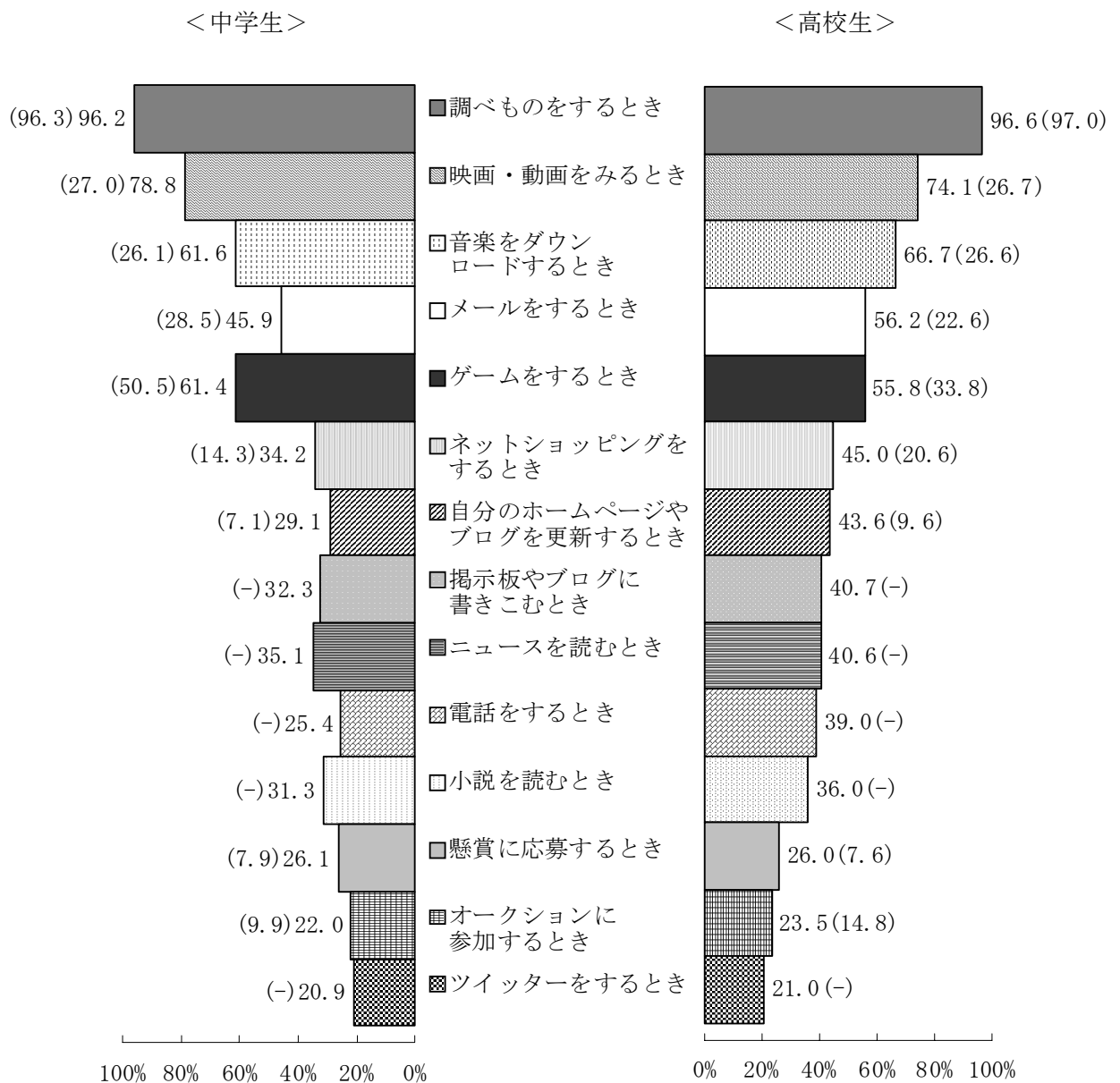


(3) インターネットの利用目的（用途）

・インターネットの利用目的をみると、中学生・高校生とも、「調べ物をするとき」、「映画・動画をみるとき」、「音楽をダウンロードするとき」の順に多い【図表 22】。

・前回調査と比較すると、利用目的が広がりを見せている。また、大半の利用目的において、「利用している」割合が大幅に増加している。

【図表 22】 インターネットの利用目的（複数回答）



(注1) 「どのようなときに利用しているか」への回答。

(注2) () 内は、前回調査（平成17年度）の結果。

(4) 利用目的が有料か無料か

・インターネットを「利用している」と回答した中学生・高校生について、利用目的（用途）が「有料か無料か」（「有料」とは、「インターネットの利用料のほかに、費用がかかること」）をみると、「有料」で利用（「有料でのみ利用」と「無料でも有料でも利用」の計）との回答が多いのは、中学生では「ネットショッピング」、「電話」、「音楽のダウンロード」の順、高校生では「電話」、「音楽のダウンロード」、「ネットショッピング」の順となっている【図表 23】。

・また、有料か無料か「わからない」との回答が多いのは、中学生では「ツイッター」、「オークション」、「電話」の順、高校生では「ツイッター」、「オークション」、「懸賞応募」の順となっている。

【図表 23】 利用目的が有料か無料か

<中学生>

(%)

	(参考) 利用率	無料 でのみ利用	有料 でのみ利用	有料でも無 料でも利用	わからない	無回答
音楽をダウンロードするとき	61.6	47.7	5.6	15.3	14.7	16.6
ゲームをするとき	61.4	71.8	0.8	7.1	12.5	7.8
ネットショッピングをするとき	34.2	25.7	12.3	15.7	36.4	10.0
懸賞に応募するとき	26.1	47.3	0.8	4.9	41.1	5.8
電話をするとき	25.4	25.0	6.1	15.3	44.6	9.0
オークションに参加するとき	22.0	21.0	7.3	11.3	52.3	8.1
ツイッターをするとき	20.9	37.7	0.7	3.0	53.1	5.5

(注) 「有料」とは、「インターネットの利用料のほかに、費用がかかること」。

<高校生>

(%)

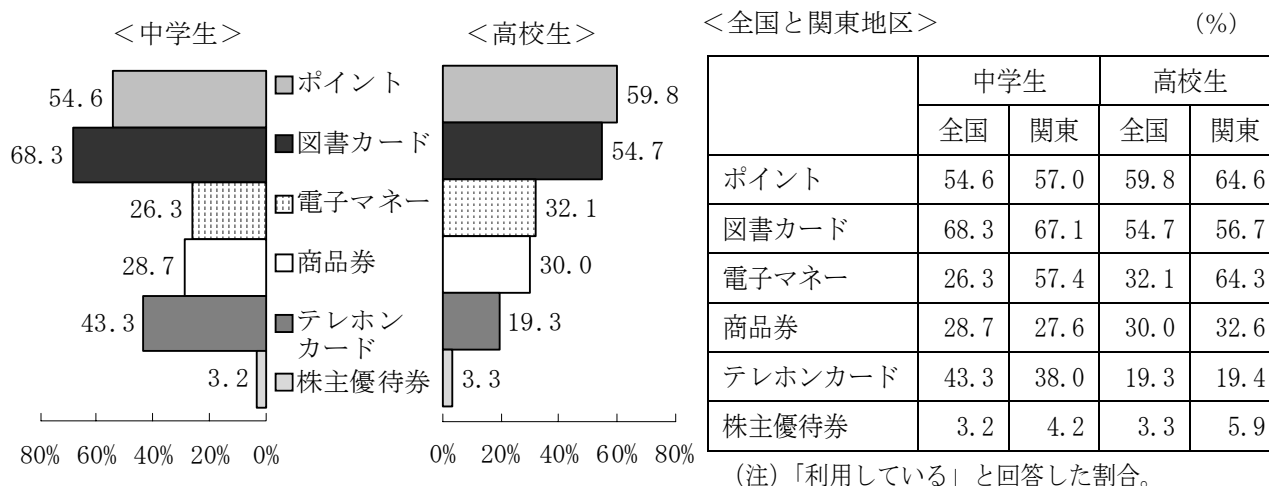
	(参考) 利用率	無料 でのみ利用	有料 でのみ利用	有料でも無 料でも利用	わからない	無回答
音楽をダウンロードするとき	66.7	55.0	7.2	23.0	7.8	7.0
ゲームをするとき	55.8	73.3	0.9	10.6	9.2	6.0
ネットショッピングをするとき	45.0	42.2	12.1	15.6	21.2	9.0
電話をするとき	39.0	33.0	9.0	23.5	22.7	11.8
懸賞に応募するとき	26.0	59.8	0.7	3.2	30.8	5.6
オークションに参加するとき	23.5	35.0	7.0	13.3	36.3	8.3
ツイッターをするとき	21.0	52.9	0.6	1.6	38.4	6.5

(注) 「有料」とは、「インターネットの利用料のほかに、費用がかかること」。

4. 電子マネーほか

・電子マネーほかの利用状況をみると、中学生では「図書カード」、「ポイント」、「テレホンカード」、高校生では「ポイント」、「図書カード」、「電子マネー」の順に多い【図表24】。なお、関東では、「電子マネー」を利用しているとの回答が多い。

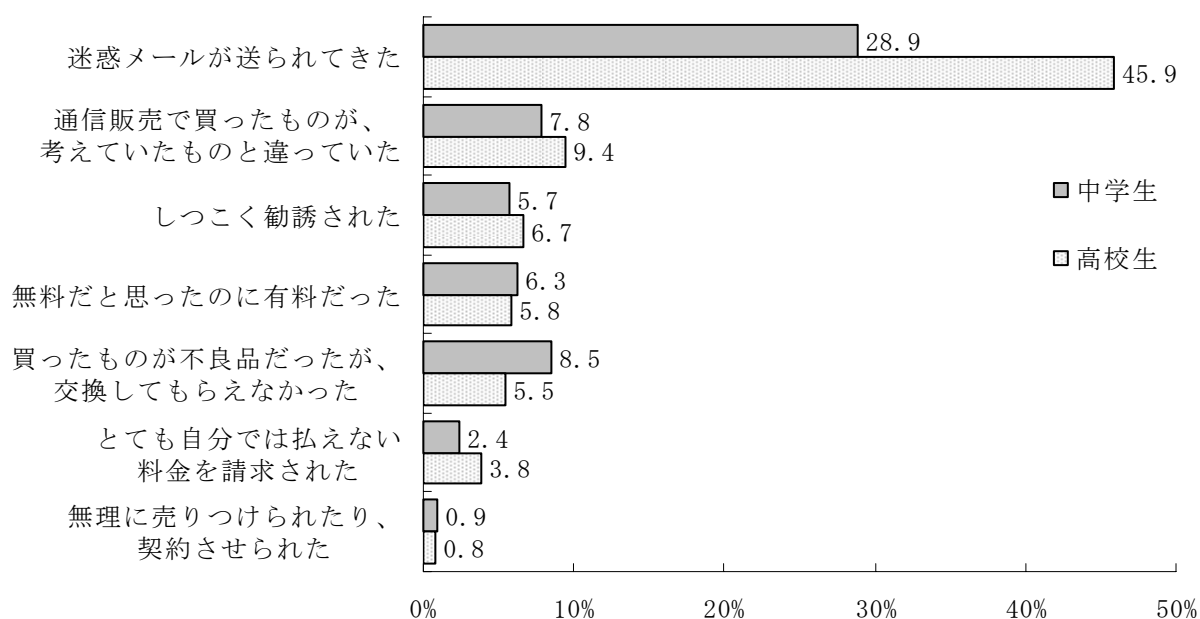
【図表24】電子マネーほかの利用状況



5. 消費者トラブルの経験

・消費者トラブルの経験についてみると、中学生・高校生ともに「迷惑メールが送られてきた」との回答が最も多く、中学生で3割弱、高校生で5割弱となっている【図表25】。
 ・次いで回答が多いのは、中学生では、「買ったものが不良品だったが、交換してもらえなかった」、「通信販売で買ったものが、考えていたものと違っていった」、「無料だと思ったのに有料だった」、高校生では、「通信販売で買ったものが、考えていたものと違っていった」、「しつこく勧誘された」、「無料だと思ったのに有料だった」の順となっている。

【図表25】消費者トラブルの経験（複数回答）



Ⅲ 家の人との会話、家事・手伝い、アルバイト

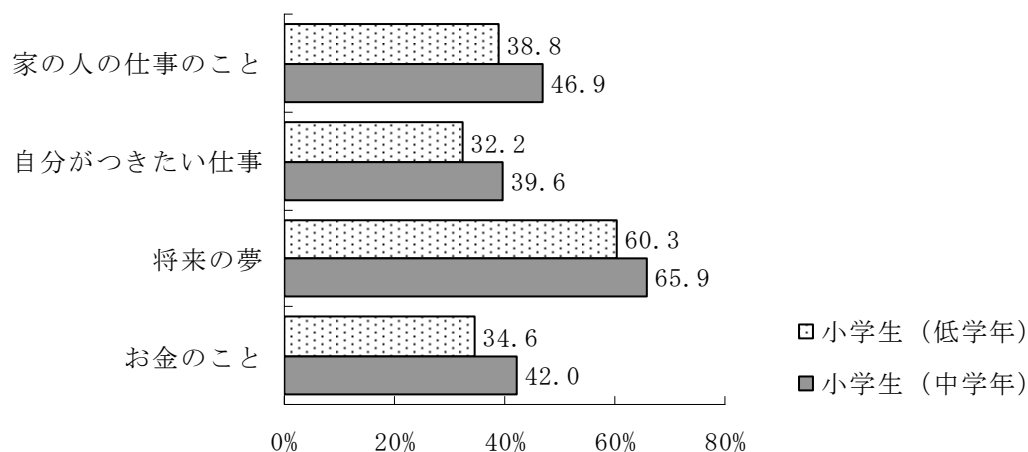
1. 家の人との会話

(1) 小学生

- ・家の人との会話についてみると、「話をしたことがある」ものは、小学校低学年と中学年では、「将来の夢」、「家の人の仕事のこと」、「お金のこと」、「自分がつきたい仕事」の順となっている。うち「将来の夢」は6割を超えている【図表26】。
- ・小学校高学年では、「よく話をする」、「ときどき話をする」の合計でみると、「家の人の仕事のこと」、「将来の夢」、「お金のこと」、「自分がつきたい仕事」の順となっている。いずれも6割を超えている。

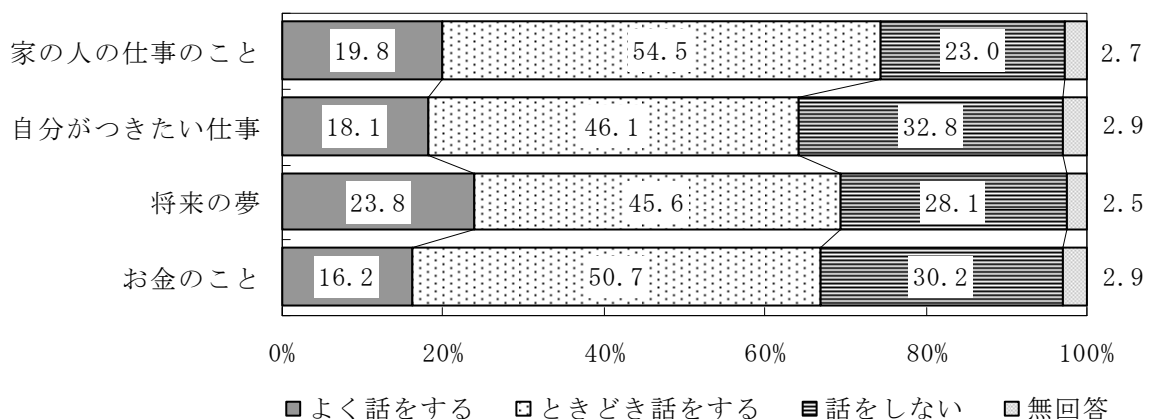
【図表26】家の人との会話（小学生）

<小学生 低学年・中学年、複数回答>



(注)「話をしたことがある」割合。

<高学年>

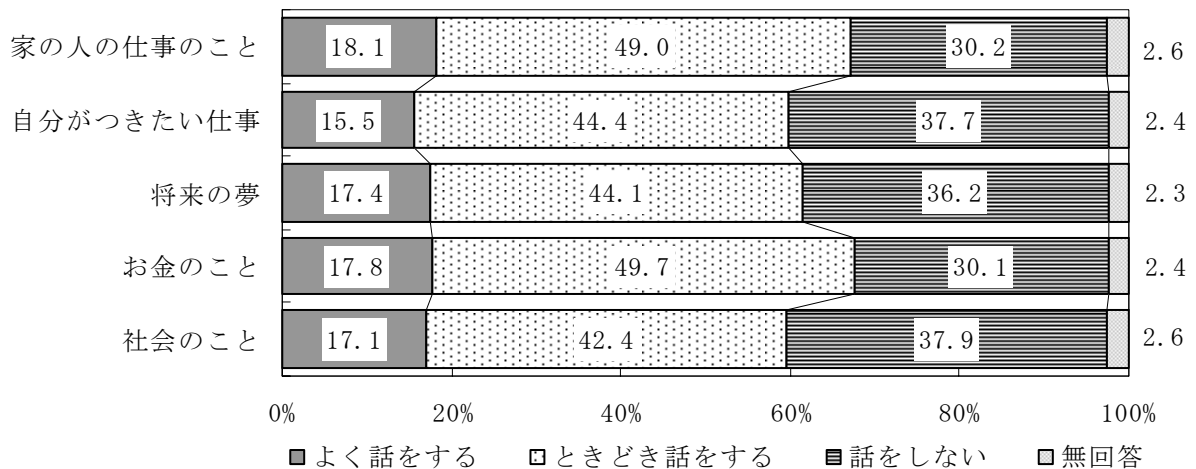


(2) 中学生・高校生

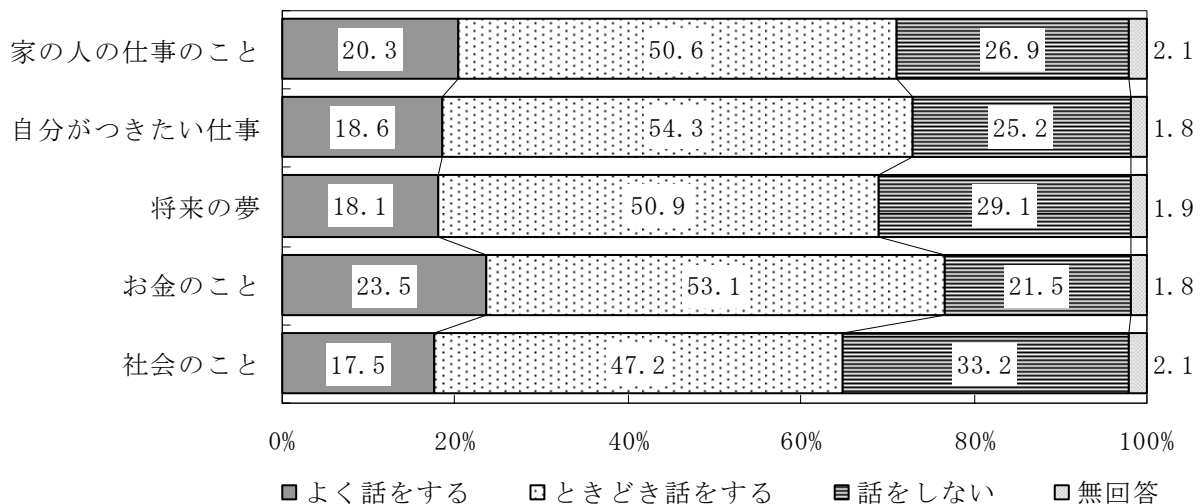
- ・「よく話をする」、「ときどき話をする」の合計で見ると、中学生では、「お金のこと」、「家の人の仕事のこと」、「将来の夢」の順、高校生では、「お金のこと」、「自分がつきたい仕事」、「家の人の仕事のこと」の順となっている。
- ・中学生と高校生とを比べると、高校生では、特に「自分がつきたい仕事」、「お金のこと」の回答が、中学生よりも多い【図表 27】。

【図表 27】 家の人との会話（中学生・高校生）

<中学生>



<高校生>

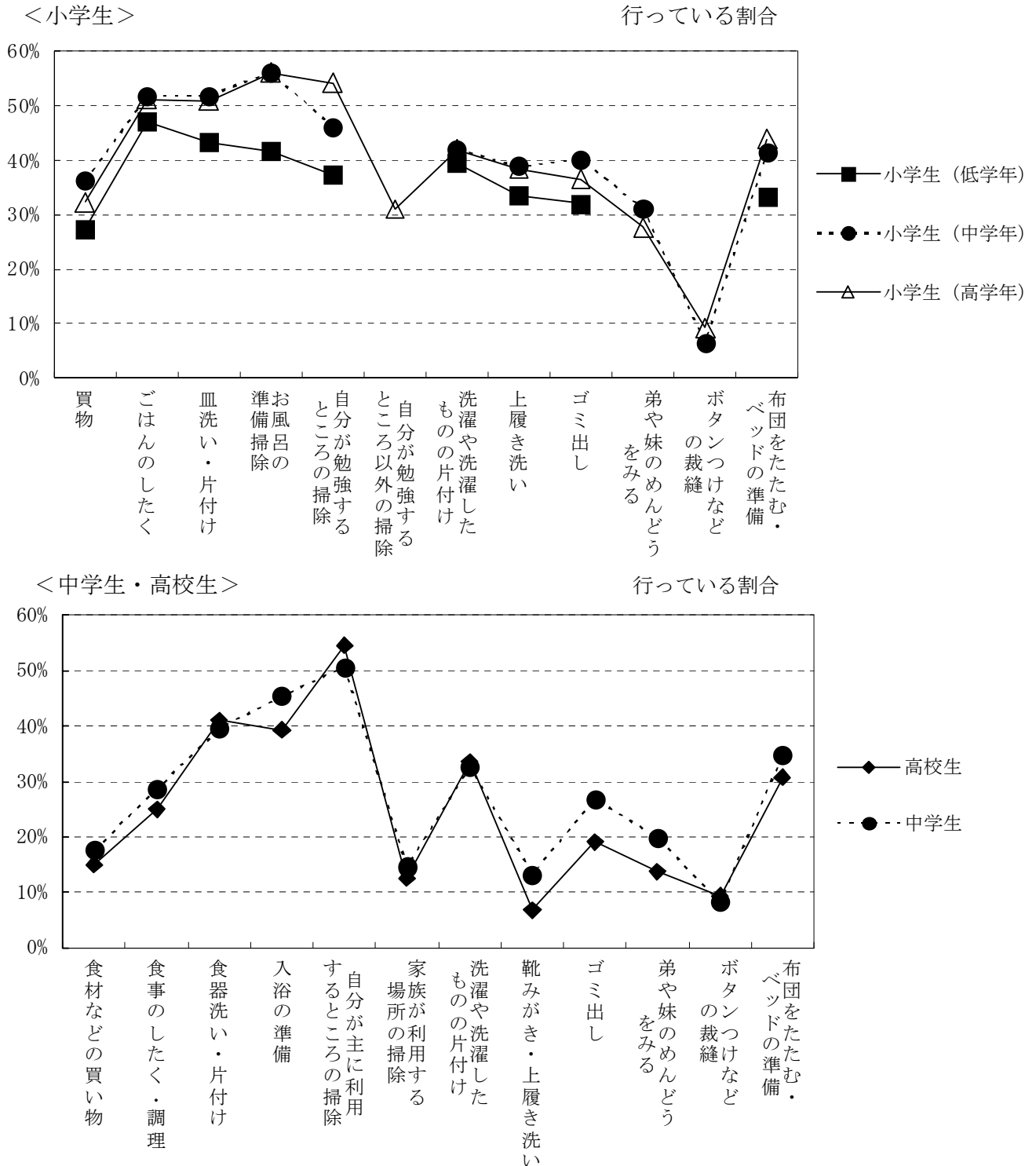


2. 家事・手伝い

・家事・手伝いの状況をみると、小学校中学年・高学年では「ごはんのしたく」、「皿洗い・片付け」、「お風呂の準備・掃除」をしているとの回答が5割を超えているほか、高学年では「自分が勉強するところの掃除」も5割を超えている【図表28】。

・中学生・高校生では、「自分が主に利用する場所の掃除」が5割を超えているが、全体としてみると、家事・手伝いをしている割合は小学校高学年よりも低くなっている。

【図表28】 家事・手伝いの状況（複数選択）



・家の人との会話と、家事・手伝いとの関係についてみると、家の人との間で「家の中の仕事のこと」や「自分がつきたい仕事」についての会話をしていると回答した子どもは、家事・手伝いをしていると回答した割合が高くなっている【図表 29】。

【図表 29】 家の人との会話と、家事・手伝いの状況

(%)

		食事の したく等	食器洗い 片付け	入浴の準備	自分が主に 利用する 場所の掃除	洗濯や洗濯 したものの 片付け	布団をたた む、ベッドの 準備
小 学 生	低学年 全体	47.2	43.3	41.7	37.3	39.6	33.4
	家の人の仕事のこと	53.5	50.6	46.9	44.1	46.9	39.6
	自分がつきたい仕事	56.4	51.9	49.5	47.4	49.1	42.8
	中学年 全体	51.7	51.9	56.2	46.0	41.9	41.5
	家の人の仕事のこと	57.6	57.5	61.1	52.9	49.2	47.3
	自分がつきたい仕事	59.2	58.6	62.7	55.7	49.3	48.6
	高学年 全体	51.2	50.9	56.1	54.2	42.0	43.9
	家の人の仕事のこと	58.7	57.2	61.5	63.7	51.1	51.0
	自分がつきたい仕事	59.8	59.8	61.1	61.7	50.8	49.5
中 学 生	全 体	28.6	39.6	45.4	50.7	32.7	34.8
	家の人の仕事のこと	39.2	49.8	52.3	57.9	43.3	41.9
	自分がつきたい仕事	37.0	46.6	52.1	59.2	39.5	42.1
高 校 生	全 体	25.0	41.1	39.3	54.6	33.5	30.8
	家の人の仕事のこと	34.2	51.2	46.1	61.6	44.1	37.5
	自分がつきたい仕事	31.7	48.3	44.4	60.6	40.4	37.0

(注1) 「全体」の欄は、回答者全体の中で、家事・手伝いをしていると回答した児童・生徒の割合。

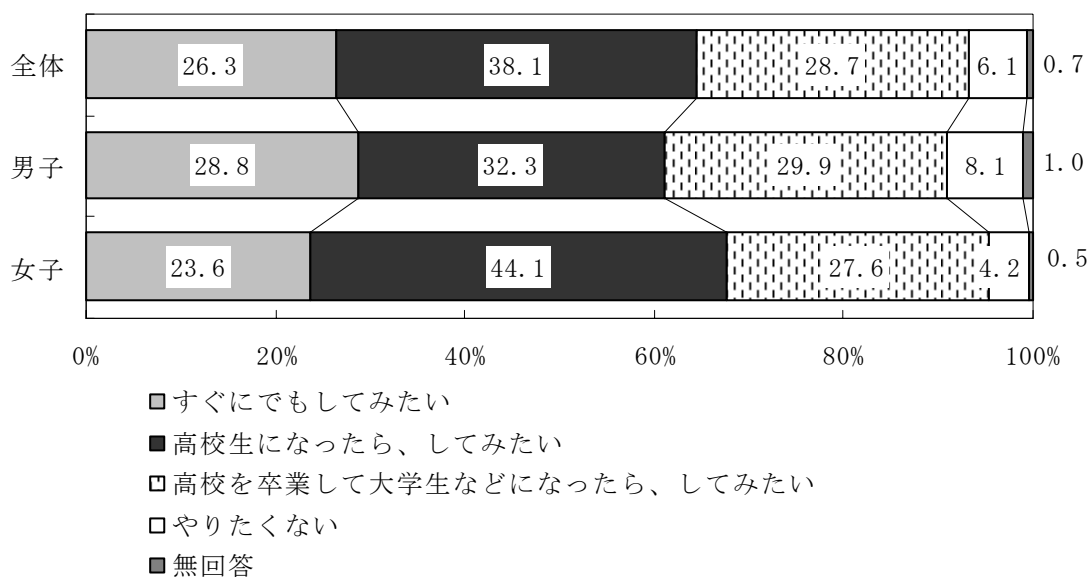
(注2) 「家の人の仕事のこと」の欄は、回答者全体のうち、「家の人の仕事のこと」について家の人と「話をしたことがある」(小学校低学年・中学年)・「よく話をする」(小学校高学年、中学生、高校生)と回答した児童・生徒の、家事・手伝いをしていると回答した割合。「自分がつきたい仕事」の欄も同様。

3. アルバイト

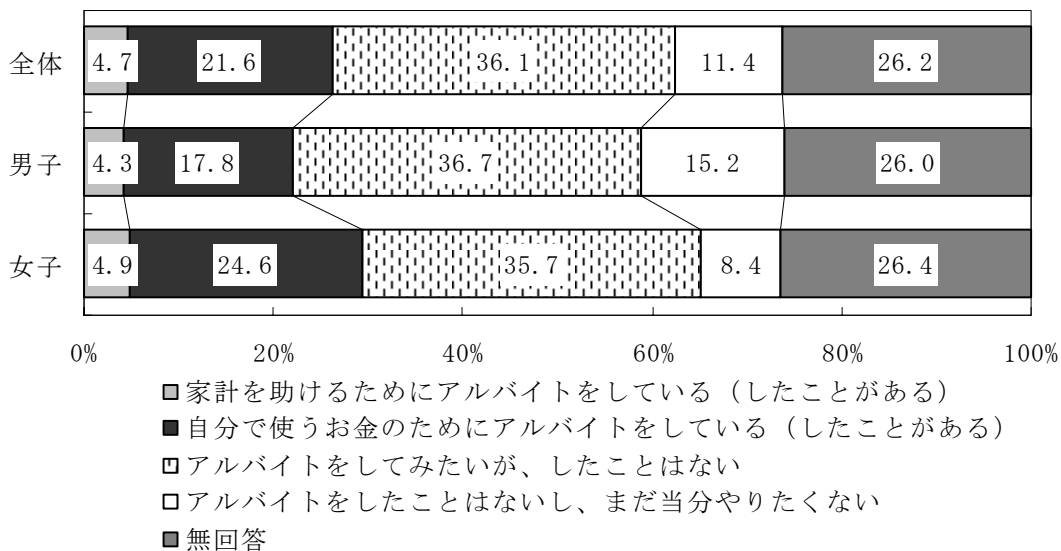
- ・アルバイトは、中学生では、「すぐにでもしてみたい」が3割弱、「高校生になったら、してみたい」が4割弱となっている【図表30】。
- ・高校生では、「アルバイトをしてみたいが、したことはない」が4割弱、「自分で使うお金のためにアルバイトをしている（したことがある）」が2割強となっている。なお、アルバイトが禁止されている場合は「無回答」に分類されている。

【図表30】アルバイトについて

<中学生>



<高校生>



IV お金についての意識、金融経済の知識、知識と行動等

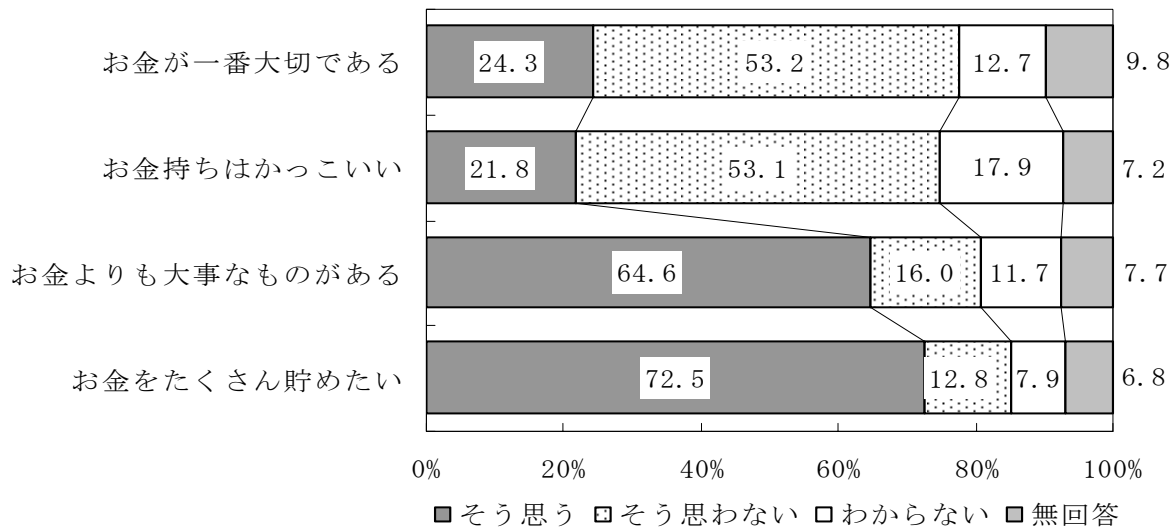
1. お金についての意識

(1) 小学生

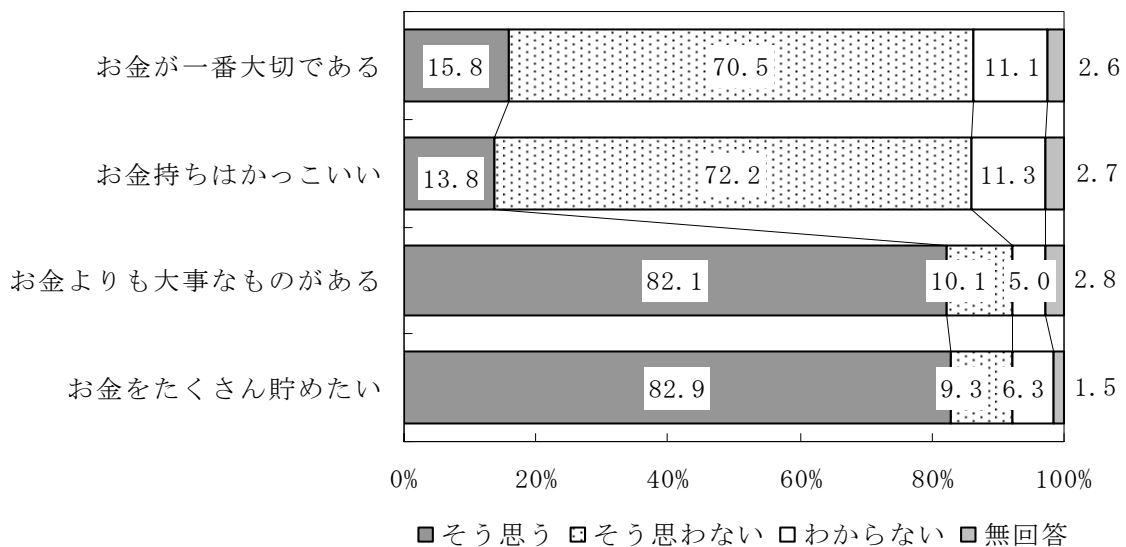
- ・「お金をたくさん貯めたい」は、小学校低学年で7割強、中学年・高学年で8割強が「そう思う」と回答している【図表31】。
- ・「お金よりも大事なものがある」は、小学校低学年で6割強、中学年で8割強、高学年で9割弱が「そう思う」と回答している。

【図表31】 お金についての意識（小学生）

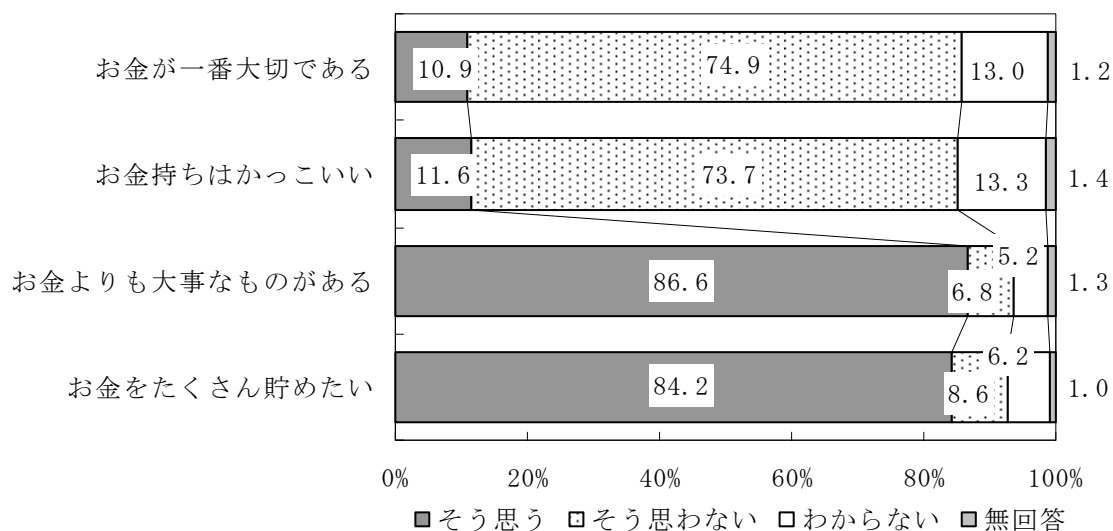
<小学生 低学年>



<小学生 中学年>



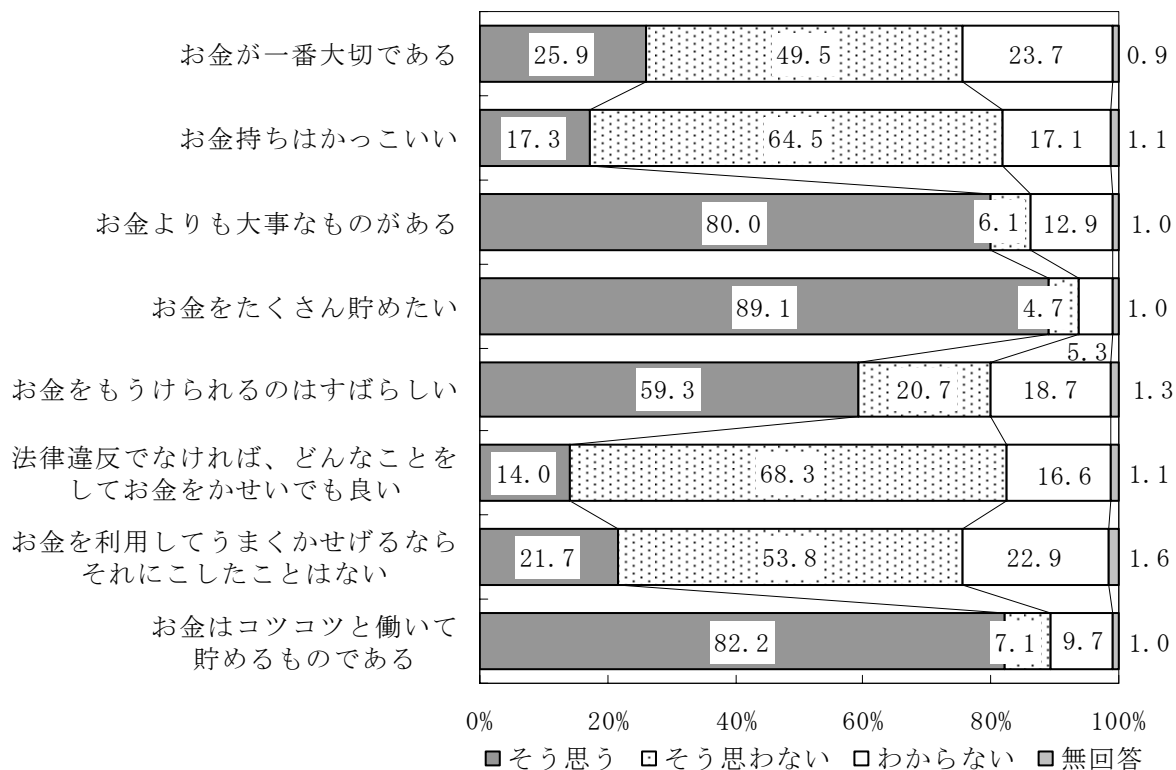
<小学生（高学年）>



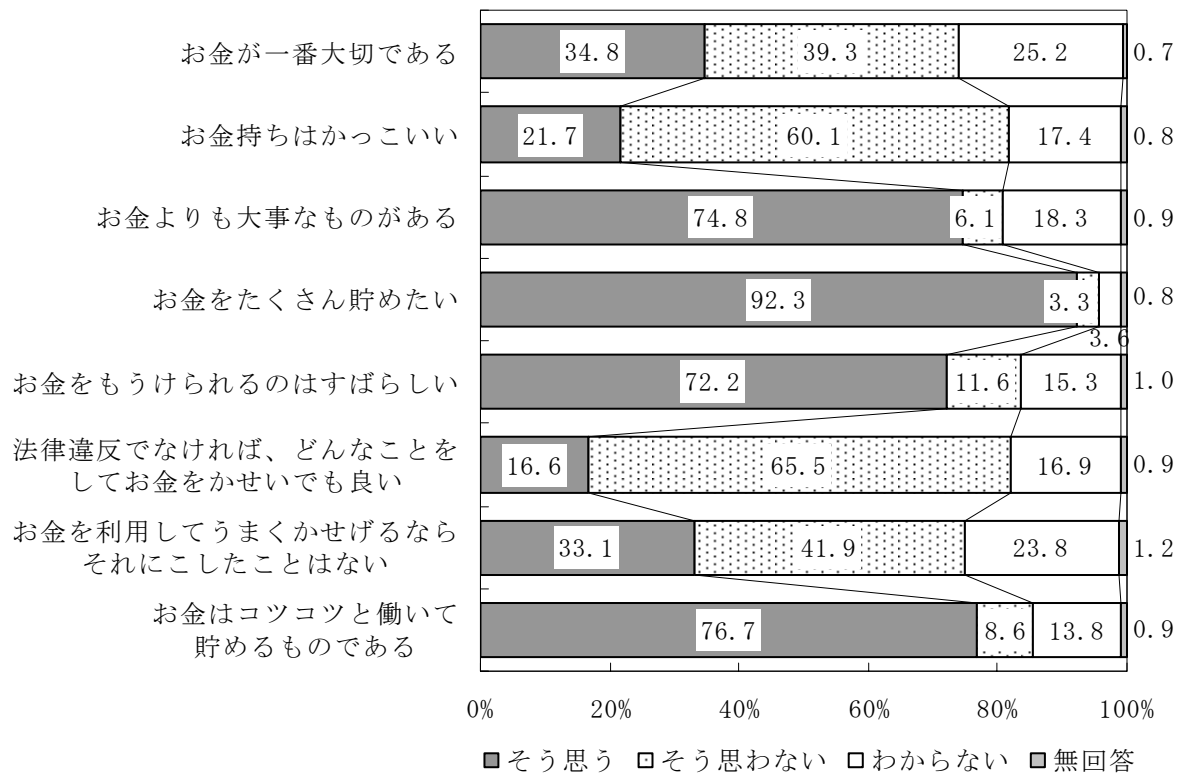
(2) 中学生・高校生

- ・「お金をたくさん貯めたい」は、中学生の9割弱、高校生の9割強が「そう思う」と回答している【図表 32】【図表 33】。
- ・「お金よりも大事なものがあ」は、中学生の8割、高校生の7割強が「そう思う」と回答している。
- ・「お金はコツコツと働いて貯めるものである」は、中学生の8割強、高校生の8割弱が「そう思う」と回答している。

【図表 32】 お金についての意識（中学生）



【図表 33】 お金についての意識（高校生）



2. 金融経済の知識

(1) 金融経済の知識

- ・「図書カード」(小学生向け設問)、「レンタルCDの延滞金」「欠陥商品の交換や返品」「消費税」(中学生・高校生向け設問)など、子どもたちの日常の暮らしに比較的身近な知識については、正答率が高かった【図表 34】。
- ・「利子の理解」(小学生向け設問)、「物価と金利」「契約の成立」「単利」「複利」「インフレ」「デフレ」(中学生・高校生向け設問)などは、正答率が2割台から4割台と低かった【図表 35】。

【図表 34】 正答率が高かったもの

<小学生>

(正答率、%)

	中学年 (3-4年生)	高学年 (5-6年生)
お金はだれでもつくることできる ×	89.9	90.8
日本のお金と、外国のお金は、同じものである ×	86.2	88.7
お札よりコインの方がものをたくさん買うことができる ×	61.2	64.3
ものを買うときは、一緒に税金も払っている ○	36.8	73.2
図書カードは、本屋ではお金と同じように使うことができる ○	—	80.6

(注1) 「○」は設問が「正しい」こと、「×」は設問が「誤り」であることを示す。

(注2) 「—」は、調査対象となっていないことを示す。

<中学生・高校生>

(正答率、%)

	中学生	高校生
レンタル店で借りたCDを期限までに返せない場合、延滞金を払わなければならない ○	78.5	81.7
買った物が欠陥商品だった場合、交換や返品ができることがある ○	77.3	81.1
保険は万一の場合の備えである ○	73.9	79.5
株価は毎日変動する ○	70.0	80.5
物やサービスを購入するときに支払う税金は、消費税である ○	61.8	75.1

【図表 35】 正答率が低かったもの

<物価と金利>

(正答率、%)

	中学生	高校生
物価が年率 1%上昇しているときに、銀行に預けているお金の年率 2%の金利がついている場合には、預けているお金で買えるものは多くなる ○	—	20.4

<契約の成立>

	中学生	高校生
契約は、すべて書類に記名し、印を押すことで成り立つ ×	13.8	20.9

<クレジットカード>

	中学生	高校生
代金前払い方式のカードを、クレジットカードという ×	17.5	26.5
クレジットカードは、申し込みさえすれば誰でも保有することができる ×	—	41.2

<日本銀行の機能>

	中学生	高校生
金融政策を行うのは、日本銀行である ○	27.1	—
日本銀行の金融政策は、現在、主にオープンマーケットオペレーション（公開市場操作）である ○	—	33.2

<複利>

	中学生	高校生
100 円についての 2 円の利子を含めてそのまま年利 2%で 5 年間預け続けると、10 円を超える利子がつく ○	29.3	33.9

<利子の理解>

	小学校低学年	
ぎんこうにお金をあずけると、りしがついて、お金がふえる ○	34.1	
	小学校中学年	小学校高学年
銀行や郵便局などに貯金すると、利子をつけて返してくれる ○	27.5	38.8

<単利>

	中学生	高校生
100 円を年利 2%で 1 年間預けると、2 円の利子がつく ○	36.5	45.7

<インフレ>

	中学生	高校生
インフレが進むと、同じお金で買えるものは少なくなる ○	34.3	46.4

<デフレ>

	中学生	高校生
デフレは、ものの値段が下がっていくことをいう ○	34.1	49.0

<企業の資金調達>

	中学生	高校生
企業は、株式や債券を発行して資金を調達する ○	34.2	52.9

<銀行の機能>

	中学生	高校生
銀行は、預金を企業に貸し出している ○	38.8	55.3

<円－ドル相場>

	中学生	高校生
「1ドル＝100円」から、「1ドル＝80円」になったら、円高(ドル安)である ○	49.9	59.6

(2) 高校生の金融経済用語の知識

- ・高校生の金融経済用語の知識をみると、「複利」、「ペイオフ」、「リスクとリターン」、「多重債務問題」など、とくに金融関係の用語について、「聞いたことがあり、内容もほぼわかる」との回答が少ない【図表36】。

【図表36】金融経済用語の知識（高校生）

(%)

順位	用語	聞いたことがあり、内容もほぼわかる	聞いたことはあるが、内容はわからない	聞いたことがない
1位	振り込み詐欺	89.1	4.8	2.6
2位	ニート	88.5	5.7	2.4
3位	クーリング・オフ	71.9	19.8	4.8
4位	保証人	70.3	22.4	3.9
5位	国民年金	63.2	29.3	4.2
6位	消費生活センター	36.5	43.3	16.8
7位	多重債務問題	28.0	33.7	34.7
8位	リスクとリターン	24.5	41.1	30.9
9位	ペイオフ	13.9	45.5	37.0
10位	複利	10.0	40.6	46.0

(注) 順位は、「聞いたことがあり、内容もほぼわかる」の割合が高い順。

3. 知識と行動等

(1) 家の人との会話と金融経済の知識

・金融経済の知識が最上位群（※）の子どもについて、家の人との会話に関する回答を全体と比べると、全ての話題について家の人とよく話をする割合が高く、とくに「社会のこと」についてよく話をする割合が高い【図表 37】。

【図表 37】 金融経済の知識が最上位群の子どもの家の人との会話

(%)

話 題		小学校中学年	小学校高学年	中学生	高校生
家の人の仕事のこと	全 体	46.9	19.8	18.1	20.3
	最上位群	56.5	23.1	22.3	24.0
自分がつきたい仕事	全 体	39.6	18.1	15.5	18.6
	最上位群	51.8	21.5	20.4	21.5
将来の夢	全 体	65.9	23.8	17.4	18.1
	最上位群	68.3	24.7	20.6	20.4
お金のこと	全 体	42.0	16.2	17.8	23.5
	最上位群	54.1	20.6	23.7	28.8
社会のこと	全 体	—	—	17.1	17.5
	最上位群	—	—	27.6	26.5

(注1) 家の人との会話の話題について、小学校中学年は「話をしたことがある」割合。小学校高学年、中学生、高校生は「よく話をする」割合。

(注2) 「—」は、調査対象となっていないことを示す。

(※) ここでは、「最上位群」を、金融経済の知識に関する設問に対する正答数が下記の児童・生徒（回答者全体の上位1割程度）とし、回答者全体との比較を行っている。なお、設問の内容は32頁以降の調査票を参照。

	設問（問題数）	正答数	該当者数とその割合
小学校中学年	「とい15」（6問）	6問	回答者 6,427人中、407人〈約6%〉
小学校高学年	「問15」（10問）	9～10問	回答者 8,094人中、1,228人〈約15%〉
中学生	「問23」（19問）	16～19問	回答者 20,139人中、2,032人〈約10%〉
高校生	「問23」（24問）	20～24問	回答者 28,303人中、3,424人〈約12%〉

(2) お金に関する行動等

- ・ お金に関する行動等をみると、「おこづかいの使い方について、計画を立てている」との回答は、中学生・高校生で約4割。「レシートをもらったら、金額を確認し、持ち帰っている」は、中学生で5割強、高校生で4割強となっている【図表38】。
- ・ 金融経済の知識が最上位群の子どもについて、お金に関する行動等に関する回答を全体と比較すると、お金の使い方などについて計画性の高さ（おこづかいの使い方の計画など）、慎重さ（おつりやレシートの確認など）を示す回答をしている割合が高い。

【図表38】 お金に関する行動等

		(%)			
		小学校 中学年	小学校 高学年	中学生	高校生
高いものが欲しいときには、お金を貯めている — 「そうしている」と回答	全 体	76.4	74.0	73.5	77.5
	最上位群	85.7	82.2	78.2	82.5
おこづかいの使い方について、計画を立てている — 「そうしている」と回答	全 体	—	—	39.5	38.2
	最上位群	—	—	42.8	42.6
お金を使うときには、使い方をよく考えている。 — 「そう思う」と回答	全 体	—	84.8	—	—
	最上位群	—	88.0	—	—
高いものを買うときには、どこの店が安いか調べたり、類似商品と価格や性能を比べたり、買った人の感想を聞いたりしている — 「そうしている」と回答	全 体	—	—	59.8	71.7
	最上位群	—	—	74.9	81.2
おつりをもらったら、確認している。 — 「そうしている」と回答	全 体	—	71.0	66.6	61.3
	最上位群	—	78.8	73.2	70.0
レシートをもらったら、金額を確認し、持ち帰っている。 — 「そうしている」と回答	全 体	—	—	52.5	44.2
	最上位群	—	—	56.5	51.6
保証書や取扱説明書は保管している — 「そうしている」と回答	全 体	—	—	68.4	72.0
	最上位群	—	—	78.7	80.3
うまい話には、裏がある — 「そう思う」と回答	全 体	—	—	—	74.5
	最上位群	—	—	—	85.7
将来のことよりも現在の方が大事である — 「そう思わない」と回答	全 体	—	—	30.3	34.9
	最上位群	—	—	41.2	43.9

(注) 「—」は、調査対象となっていないことを示す。

以 上